

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目	評価の視点				
1.使命と計画					
①中長期計画					
A. 目標と計画・重点事業の構築、事業への活用	<ul style="list-style-type: none"> 目標の設定、具体的計画の策定状況 事業への活用状況 	<ul style="list-style-type: none"> 24年度に引き続き、具体的計画の策定と計画実現のための手法を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的計画の策定と計画実現のための手法について検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の年次計画の策定し、予算要求等に活用する。 	【課題】 ・計画実現のための予算確保 【改善案】 ・状況に応じた計画の見直し
有識者所見					
②評価の実施					
A. 評価の実施と結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価及び外部評価の実施状況 P.D.C.A.サイクルへの反映状況 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価及び外部評価を行うとともに、PDCAを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価 県立博物館評価に係る自己評価表を作成した。 ○外部評価 千葉県立博物館評価に係る有識者意見交換会で外部評価を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価シート及び博物館協議会、有識者意見交換会による外部評価を実施する。 	【課題】 ・組織的課題や問題意識の共有 【改善案】 ・資料回覧や会議開催等による情報の共有化 ・目標チャレンジプログラム等の活用
有識者所見					
2.組織と運営等					
①組織・人員					
A. 職員の研修	<ul style="list-style-type: none"> 研修への参加体制の整備状況 参加状況(種類・件数・人数) 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が積極的に参加できる体制をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術館学、保存科学、著作権、教育普及等の研修会への参加を奨励し、延べ13名が研修会等に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員に対して、研修への積極的な参加を奨励する。 	【課題】 研修成果の業務への反映 【改善案】 ・報告会等の開催による情報の共有
有識者所見					
②県民ニーズに則した運営					
A. 利用者数	<ul style="list-style-type: none"> 当該年度の利用者数 前年度比較による傾向 	<ul style="list-style-type: none"> 耐震改修等工事に伴う休館中のため、設定なし 		<ul style="list-style-type: none"> 20,000人を目標とする。 	【課題】 ・目標数の確保 【改善案】 ・広報の充実
B. 満足度・ニーズ等の調査	<ul style="list-style-type: none"> 実施方法と結果 結果の事業への反映状況 	<ul style="list-style-type: none"> 耐震改修等工事に伴う休館中のため、設定なし 		<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査等の方法により、利用者の満足度やニーズの把握に努める。 	【課題】 ・アンケート結果の運営への活用と反映 【改善案】 ・アンケート手法の検討
有識者所見		目標設定に「耐震改修工事のため設定なし」とあるが、おかしい。工事中でもできる活動。(村井)			
3.施設・設備					
①アメニティーの向上					
A. バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー対策の実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> 耐震改修等工事に伴う休館中のため、設定なし 		<ul style="list-style-type: none"> 点字キャプションの設置など、展示での工夫に努める。 	【課題】 ・ニーズや問題点の把握 【改善案】 ・障害者等関係団体へのアンケートや聞き取り調査の実施
B. アクセス	<ul style="list-style-type: none"> 交通機関(含誘致)と駐車場の状況 アクセス案内の状況 	<ul style="list-style-type: none"> 耐震改修等工事に伴う休館中のため、設定なし 		<ul style="list-style-type: none"> 交通事情の把握 	【課題】 館周辺の再開館に伴う交通事情の変化 【改善案】 ・交通サインの修正や増設 ・ホームページの改善
C. ミュージアムショップ	<ul style="list-style-type: none"> 利用者満足度とニーズの把握状況 結果の反映状況 	<ul style="list-style-type: none"> 耐震改修等工事に伴う休館中のため、設定なし 		<ul style="list-style-type: none"> 運営主体(友の会)による再開館準備への支援 	【課題】 ・利用者ニーズの把握 ・売り上げ向上 【改善案】 ・美術館からのアドバイスやサポート(他のミュージアムショップの事例紹介、商品構成の提案など)
有識者所見		どのような障害ある方が美術館を利用しているのかを見極め、点字キャプション以外にも必要とされている取組を行うべき。ミュージアムショップは友の会が運営しており、その他の活動も積極的に評価できる。今後は視野もひろげて友の会の活動にも注目し、しっかりと評価していきたい。(村井)			

4.財源					
①予算の確保					
A. 入場料収入・その他の事業収入	・当初計画に対する収入の達成状況 ・その他の収入の状況	・耐震改修等工事に伴う休館中のため、設定なし		・入場料収入見込 7,510,976円 ・その他の収入見込 552,828円	【課題】 ・見込額の達成 【改善案】 ・広報の工夫(段階的広報や途中評価の実施) ・有料層(15~64歳)の集客
有識者所見	目標設定に「耐震改修工事のため設定なし」とあるが、おかしい。工事中でもできる活動。(村井)				
②館独自の財源獲得					
A. 外部助成金等の獲得	・獲得計画に対する達成状況	・予定なし	申請件数:1件(研究費) 採択件数:1件(研究費)	・外部資金の申請と採択を目指す。	【課題】 特になし 【改善案】
有識者所見					
5.収集・保存及び活用					
①資料の管理と収集					
A. 収集点数と収集点数	・ 収集資料の件数と点数 ・ 新収集資料の件数と点数	・収集方針に基づいて収集を行う。	・収集作品6分野2,404点、研究資料1,619点(平成25年度末現在) ・25年度新収集作品5点、研究資料2点(いずれも寄付による)	・収集方針に基づき、収集に努める。	【課題】 ・未収集作家の作品収集 ・購入予算の確保 【改善案】 ・調査研究による作品所在情報の蓄積
B. 登録	・ 収集資料の管理(台帳等整備)状況	・25年度に収集するすべての資料について実施する。	・25年度までに収集した資料について台帳への記入及びカードの作成を行った。	・26年度に収集するすべての資料について台帳への記入及びカードの作成を行う。	【課題】 特になし 【改善案】
C. 維持管理と修復・保存処理	・ 定期的な維持管理の実施状況 ・ 資料の修復作業・保存処理の状況	・定期的な点検、定期的な温湿度のチェック、入出簿の記載、年1~2回の大掃除 ・修復については、予算がないため実施予定なし	・耐震改修等工事に伴い、収集資料を別室に仮収蔵していたが、毎週1回収蔵場所の温湿度確認を行うとともに、トラップを設置し、保存環境の把握に努めた。	・工事終了後の収蔵庫について、除塵除菌作業を行う。 ・定期的な点検、温湿度の確認、トラップによる昆虫相調査を行い、保存環境の把握と適切な環境の維持に努める。 ・修復年次計画の策定	【課題】 ○維持管理 ・収蔵庫用備品及び消耗品予算の確保 ・災害対策 ○修復等 ・修復予算の確保 【改善案】 ○維持管理 ・年次計画に基づく予算要求 ○修復等 ・年次計画に基づく予算要求
有識者所見	収集資料の修復は予算がないため行わないとあるが必要ないのか。修復の年次計画を検討し、外部資金の獲得も視野にいれて検討してほしい。(村井)				
②資料の活用					
A. 要望に応じた貸出等	・ 研究や展示等、資料の貸出状況	・必要に応じての貸出を行う。 ・写真のない資料については、順次貸出ができる体制を整える。	・他の美術館に対して、収集資料11点を貸し出した。 ・収集資料の写真掲載については13件31点の画像を提供した。	・要望があった場合は、貸付要綱等の規定に基づき、作品及び写真画像等の貸出を行う。	【課題】 特になし 【改善案】
有識者所見					
③図書室の公開					
A. 図書資料の閲覧	・ 閲覧システムの構築状況 ・ 利用状況と利用者満足度	耐震改修工事のため設定なし		・再開館に向けての公開準備 ・ボランティアの導入	【課題】 ・収蔵スペースの不足 ・図書購入予算、備品等購入予算の確保 ・利用者数の増 【改善案】 ・年次計画に基づく予算要求 ・情報資料室に関する広報
有識者所見	改修工事中、図書室は閉鎖していたので、一般の方々が快適に利用できる環境の整備に努めてほしい。(村井)				

6.調査・研究					
①調査事業					
A. 調査事業の件数	・使命に基づく調査研究の実施状況	・展覧会、収集、普及事業等に関連した調査を行う。	・26年度開催予定の特別企画展及び重点作家、千葉県関係作家の調査を実施した。 ・千葉県関係作家については、リーフレット「千葉ゆかりの美術家たち」を2編作成した。	・資料収集、収蔵資料、展示企画、普及事業等に関する調査研究を行う。	【課題】 特になし 【改善案】
有識者所見					
②外部との調査・研究					
A. 外部との調査研究の件数	・共同研究等の実施状況	(該当なし)		・他県の美術館に対して共同研究を打診する。	【課題】 ・予算の確保 ・共同研究の機会の確保 【改善案】 ・外部資金の活用
有識者所見					
③研究成果の発表					
A. 展示等への反映	・展示への反映状況 ・普及事業への反映状況	・研究成果を常設展や企画展等の企画に反映させる。	・重点作家及び千葉県関係作家に関する調査研究成果を、来館者向け印刷物にまとめたほか、26年度の海外調査計画を策定した。	・研究成果を収蔵作品展や企画展等の企画立案に反映させる。	【課題】 ・展覧会予算の確保 ・普及事業予算の確保 【改善案】
有識者所見					
7.展示					
①常設展示					
A. 展示の更新と保守・点数	・展示替の実施状況 ・保守・管理の実施状況				【課題】 【改善案】
B. 満足度	・利用者満足度の把握状況 ・結果の反映状況				【課題】 【改善案】
有識者所見					
②企画展示(変更)					
A. 企画数、利用者数、満足度	・実施状況 ・年齢・地域等入場者の動向把握 ・来館者満足度の状況	・耐震改修等工事に伴う休館中のため、設定なし		・耐震改修等工事に伴い、9ヶ月休館するため、特別企画展を1本開催する。 ・アンケート調査による満足度(非常に良い、良い)90%以上を目指す。	【課題】 ・予算の確保 ・入場者数の増 【改善案】 ・広報手法の検討(段階的広報等)
有識者所見					
③企画展示(変更なし)					
A. 企画数、利用者数、満足度	・実施状況 ・年齢・地域等入場者の動向把握 ・来館者満足度の状況	・耐震改修等工事に伴う休館中のため、設定なし		・耐震改修等工事に伴い、9ヶ月休館するため、収蔵作品展等を3本開催する。 ・アンケート調査による満足度(非常に良い、良い)90%以上を目指す。	【課題】 ・予算の確保 ・入場者数の増 ・収蔵作品展に関するマイナスイメージ 【改善案】 ・収蔵作品展に対するイメージの脱却
有識者所見					
④館外での展示					
A. 企画数、利用者数、満足度	・実施状況(要望件数等) ・利用者が満足しているか	・移動美術館を7回行う。 ・アンケート調査による満足度が90%以上	・計画通り7会場で実施した。 ・総入場者数:10,605人(1会場平均:1,515人) ・5段階評価で「非常に良い」「良い」が87%を占め、概ね高い満足度を得た。	・移動美術館を2会場で実施する。 ・各会場入場者数2,000人以上 ・アンケート調査による満足度(非常に良い、良い)90%以上を目指す。	【課題】 ・予算の確保 ・入場者数の増 【改善案】 ・会場市町村との連携による広報の充実
有識者所見 平山郁夫展では混雑が予想されるため、混雑回避の方法や駐車場の整備や確保など準備を万全にすべき。アンケート調査については、記入を希望する来館者だけでは、集計結果に偏りが出してしまうので、偏りが出ない方法をとるべき。(村井)					

⑤他館との合同企画による展示					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況(ネットワーク) ・利用者が満足しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震改修等工事に伴う休館中のため、設定なし 	/	<ul style="list-style-type: none"> ・他県の美術館に対して合同展示を打診する。 	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・予算の確保 ・他県との予算執行手続きの整合が困難 【改善案】
有識者所見	目標設定に「耐震改修工事のため設定なし」とあるが、おかしい。工事中でもできる活動。(村井)				
8.教育普及事業					
①参加体験事業					
A. 回数と参加者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・種類と回数、参加者数 ・参加者は満足しているか 	ワークショップ 10回 実技講座 5回	ワークショップ 8回 計629人 <内訳> ・いろいろ作ろう、美術館の縁日だよ！76人(定員充足率152%) ・立体万華鏡を作ろう！47人(117.5%) ・小さなアニメーションを作ろう！16人(80%) ・オリジナルモノレールを作ろう！32人(80%) ・クリスマスオーナメントを作ろう！26人(86.7%) ・カンパッジを作ろう！108人(72%) ・モノレールまつり179人(定員なし) ・夢つくり隊 145人(定員なし) 実技講座 5講座 計80人 <内訳> ・陶芸講座(応用)10人(定員充足率50%) ・陶芸講座(基礎)19人(79.2%) ・篆刻講座24人(120%) ・ホリデーアート「コラグラフ」16人(40%) ・ホリデーアート「シルバーアクセサリー」11人(55.6%) ワークショップ満足度:96~99%9件/100%73件	ワークショップ7回 実技講座5回 ミュージウムコンサート1回	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・定員充足率の向上 【改善案】 <ul style="list-style-type: none"> ・美術館周辺地域への広報の徹底 ・実施結果の広報による認知度向上
有識者所見	積極的に実施し、大いに評価できる。(村井)				
②講演会・講座					
A. 回数と参加者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・種類と回数、参加者数 ・参加者は満足しているか 	耐震改修工事のため設定なし	/	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会1回 ・アンケート調査による満足度(非常に良い、良い)90%以上 ・参加者数200人 	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・講演会の広報及び集客 ・参加者の意見聴取 【改善案】 <ul style="list-style-type: none"> ・美術館周辺地域への広報の徹底 ・アンケート回収率向上方法の検討
有識者所見	目標設定に「耐震改修工事のため設定なし」とあるが、おかしい。工事中でもできる活動。(村井)				

9.情報の発信					
①県民への直接的情報提供					
A. 電話・来館面接等の質問	・件数と対応状況	数値目標は設定していない	作品や作家、展示、教育普及事業に関する問い合わせに回答し、必要に応じて他の美術館等を紹介した。	適切に対応する	【課題】 ・対応状況の記録と共有化 【改善案】 ・対応状況の記録と回覧
有識者所見					
②メディア					
A. 館事業(含調査研究)の情報提供	・提供件数 ・掲載件数の状況	前年度と同等またはそれ以上	提供:7件 掲載:5件	・前年度を上回る提供件数 ・再開館に関する情報提供 ・前年度を上回る掲載件数	【課題】 ・工事による休館に伴う事業数の減少 【改善案】 ・効果的な情報提供方法の検討
有識者所見					
③ホームページ					
A. ホームページによる情報発信	・更新件数 ・資料登録件数の状況 ・アクセス数の状況	更新52回 アクセス90,000回	更新件数:55回 資料登録件数:0件 アクセス数:66,095回	更新件数:48回 資料登録件数:23件 アクセス数:90,000回	【課題】 ・アクセス数の増加 ・コンテンツの充実 【改善案】 ・ブログ開設の検討
有識者所見					
④刊行物					
A. 印刷物による広報	・種類と部数 ・配付等の状況	12回	・ポスター、チラシ、事業案内等 13種、97,300部	ポスター、チラシ、事業案内等 16種、181,660部	【課題】 ・美術館周辺の集合住宅組合の協力 ・デザイン 【改善案】 ・美術館周辺地域への配布方法の検討 ・デザイナーの活用
有識者所見					
10.県民参画					
①県民との協働					
A. ボランティア	・ボランティア活用システムの構築 ・登録者数と活動状況 ・育成のための研修等の実施状況	耐震改修工事のため設定なし	/	・ボランティアの募集 ・受入れ人数:30人 ・研修会:2回	【課題】 ・登録者数の増加 ・募集広報の方法 ・ニーズの把握 【改善案】 ・美術館周辺地域への広報の充実 ・ボランティアとの対話によるニーズの把握
B. 県民からの情報提供	・情報入手体制の状況 ・対応状況	情報収集システムの十分な構築		システム構築を目指したが、不十分なままである。	提供された情報(寄贈申し出や作品の所在情報等)の活用
C. 友の会	・会員数(増減) ・活動状況(館との連携・単独事業)	会員数の増加と活動のさらなる活性化	友の会による自主講座等が活発に行われている。 会員数:347人(H26年3月末現在) 友の会との連携事業:1件 実技講座、研修旅行参加者数:169人	会員数の増加と活動のさらなる活性化	【課題】 ・活動の活性化 ・会員の高年齢化 ・財源の確保 【改善案】 ・美術館によるアドバイスやサポート
有識者所見 目標設定に「耐震改修工事のため設定なし」とあるが、おかしい。工事中でもボランティアの研修などはできるはず。どのような情報収集が必要なのかを見極めることが第一段階。その協議から始めるべき。また、県民が美術館にどんな情報を求めているのかを調査することも必要。(村井)					

②外部との連携・調査					
A. 実施の状況	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 実施状況	耐震改修工事のため設定なし		耐震改修工事のため設定なし	【課題】 ・ 効果的な連携事業の実施 【改善案】 ・ 再開館後の連携事業の検討
有識者所見	目標設定に「耐震改修工事のため設定なし」とあるが、おかしい。工事中でもできる活動。(村井)				
11.人材育成					
①博物館実習					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 回数、校数と参加者数	耐震改修工事のため設定なし		耐震改修工事で受け入れできないため、27年度以降の実習内容を検討する	【課題】 ・ 工事中のため、受け入れできない。 ・ 実習内容の充実 【改善案】 ・ 館の特性を活かした実習内容の検討
有識者所見					
②教員等研修					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 回数、校数と参加者数	耐震改修工事のため設定なし		耐震改修工事で受け入れできないため、27年度以降の内容を検討する。	【課題】 ・ 工事中のため、施設を利用した研修ができない。 【改善案】 ・ 再開館後に向けた教員への広報
有識者所見					
③職場体験学習・インターンシップ					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 回数、校数と参加者数	耐震改修工事のため設定なし		耐震改修工事で受け入れできないため、27年度以降の内容を検討する。	【課題】 ・ 問合せは多いが、工事のため受け入れできない。 ・ 学校連携(出張授業)等、他業務との調整 【改善案】 ・ 学校との密接な連絡調整
有識者所見					
12.県民等からの依頼による学習支援					
①展示等の活用					
A. 解説の回数、利用者数と満足度	・ 回数と利用者数 ・ 利用者ニーズの把握状況	・ 準定期的なギャラリートークを実施する。	・ 千葉県移動美術館 7会場 延べ14回のギャラリートーク 参加者数:延べ376人	ギャラリートークの実施 ・ 千葉県移動美術館2会場で各1回 ・ 特別企画展で5回 ・ 収蔵作品展で5回	【課題】 ・ 学習支援の広報 【改善案】 ・ ギャラリートーク以外の学習支援メニューの検討
有識者所見					
②館内での講座・講演会					
A. 回数、利用者数と満足度	・ 回数と利用者数 ・ 利用者ニーズの把握状況	耐震改修工事のため設定なし		講演会1回	【課題】 ・ 特別展開関連以外の講座の実施 【改善案】 ・ 収蔵作品展開催時の講座の開催
有識者所見					

③学校連携					
A. 学校団体の受入	・ 受入校数と回数、人数 ・ 利用者ニーズの把握状況	耐震改修工事のため設定なし		耐震改修工事のため設定なし	【課題】 ・ 校外学習時間の減少 【改善案】 ・ 学校団体向けのメニュー開発 ・ 学校へのアンケートなどによる課題の把握
B. 出前授業	・ 実施校数と回数、人数 ・ 利用者ニーズの把握状況	学校側からの依頼を受けて随時実施するので目標を設定しない。	・ 24校30件 1,794人	前年度並み	【課題】 ・ 広報 ・ 依頼数増加や依頼重複時の調整 【改善案】 ・ 教員向け広報方法の検討 ・ アンケートや聞き取り調査による利用者ニーズの把握
有識者所見					
④外部講師依頼					
A. 依頼の状況、回数と人数	・ 支援体制の状況 ・ 回数と参加者数 ・ 利用者ニーズの把握状況	2回 2人	31回 <内訳> ・ 大学非常勤講師 1件 ・ 出前授業 24校30件 1,794人	要望に応じた講師派遣の実施	【課題】 ・ 依頼数増加や依頼重複時の調整 【改善案】 ・ 職員のスキルアップ
有識者所見					
13. 地域づくりへの支援					
①地域との連携事業					
A. 機関・地域住民等との連携	・ 実施状況(種類と件数) ・ ニーズの把握の状況	3回	「美浜アートフェスティバル」(千葉再生リサーチ、千葉市民ギャラリーいなが、千葉大学) 「成田アート博覧会」(成田市仲町商店街、成田市内中学校・高校) 「日赤キッズクロスプロジェクトー夢つくり隊ー」(日本赤十字社、地元教育委員会)	3回	【課題】 ・ 内容の充実 【改善案】 ・ アンケートや聞き取り調査による利用者ニーズの把握
有識者所見					
②観光資源としての活用					
A. 県外団体来館数	・ 団体数 ・ 地域等の傾向	耐震改修工事のため設定なし		耐震改修工事のため設定なし	【課題】 ・ 近隣の美術サークルや美術館友の会の団体利用はあるが、一般団体の観光目的利用がほとんどない。 ・ 収蔵作品展に対するマイナスイメージ 【改善案】 ・ 観光事業者等への広報の充実
B. 外国人入場者数	・ 利用者数 ・ 地域等の傾向	耐震改修工事のため設定なし		耐震改修工事のため設定なし	【課題】 ・ 外国人入場者数の把握方法 ・ 無料ゾーンへの中国や韓国系外国人入場者はあると思われるが、人数の把握ができない。 【改善案】 ・ 外国人入館状況の把握方法の検討
有識者所見 耐震改修工事後の観光資源としての活用策をもっと積極的に検討してほしい。(村井)					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
1. 使命と計画					
① 中長期計画					
A. 目標と計画・重点事業の構築、事業への活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標の設定、具体的計画の策定状況 ・ 事業への活用状況 	継続	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年次計画はあるか。→ Yes ○ 事業等の優先順位を付けているか。→ Yes(年次計画による優先順位) ○ 実施スケジュールを立て予算要求しているか。→ Yes(年次計画による要求) ○ 事業実施に至っているか。→ Yes(年次計画に沿った運営を行っている) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価を行っているか→ Yes 事業活動の結果を年次報告(評価調書)として集約し、それに基づいて、当該年度の計画達成度を評価している。 ○ P.D.C.A.サイクルに反映されているか→ Yes 事業年次計画のうち、当該年度の計画達成度をその内容、数値等で検証し、次年度以降の計画を見直すこととしている。 	<p>【課題】 目標を着実に達成する。</p> <p>【改善案】 状況に応じて年次計画の見直しを行う。</p>
有識者所見		目標を着実に達成して欲しい。(黒田)			
② 評価の実施					
A. 評価の実施と結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価及び外部評価の実施状況 ・ P.D.C.A.サイクルへの反映状況 	継続	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価を行っているか→ Yes 事業活動の結果を年次報告(評価調書)として集約し、それに基づいて、当該年度の計画達成度を評価している。 ○ P.D.C.A.サイクルに反映されているか→ Yes 事業年次計画のうち、当該年度の計画達成度をその内容、数値等で検証し、次年度以降の計画を見直すこととしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価を行っているか→ Yes 事業活動の結果を年次報告(評価調書)として集約し、それに基づいて、当該年度の計画達成度を評価している。 ○ P.D.C.A.サイクルに反映されているか→ Yes 事業年次計画のうち、当該年度の計画達成度をその内容、数値等で検証し、次年度以降の計画を見直すこととしている。 	<p>【課題】 組織的な課題や問題について、全職員が一丸となって取り組む体制の強化</p> <p>【改善案】 資料の回覧、ネット環境を活用した伝達等によって、情報の透明性と共有化を図り、各職員の当事者意識を高める。</p>
有識者所見		PDCAサイクルへの繁栄は本館、分館と連携して行っていると思われるが、未実施であるならば、分館のPDCAサイクルに本館の積極的な支援、関与を望みたい。(加藤)			
		評価をしても、それが問題の改善に活かされないのでは、意味がなくなってしまうので、ぜひとも問題を各職員で共有してほしい。(黒田)			
2. 組織と運営等					
① 組織・人員					
A. 職員の研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修への参加体制の整備状況 ・ 参加状況(種類・件数・人数) 	継続	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員が積極的に参加できる体制をとっているか→ Yes 外部より通知された各種研修会等の案内は、職員に回覧し、希望する職員には、可能な限り受講・参加の機会を与えている。(国関係研修) ・ ミュージアムエドゥケーター研修 1人 ・ 博物館学芸員専門講座 1人(県関係研修) ・ 千葉県美術館・博物館等職員研修 5人 ・ 千葉県博物館協会研修会 3人 ・ 千葉県文化財管理指導講習会 7人 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員が積極的に参加できる体制をとっているか→ Yes 外部より通知された各種研修会等の案内は、職員に回覧し、希望する職員には、可能な限り受講・参加の機会を与えている。(国関係研修) ・ ミュージアムエドゥケーター研修 1人 ・ 博物館学芸員専門講座 1人(県関係研修) ・ 千葉県美術館・博物館等職員研修 5人 ・ 千葉県博物館協会研修会 3人 ・ 千葉県文化財管理指導講習会 7人 	<p>【課題】 研修の成果を館運営に反映させる。</p> <p>【改善案】 研修参加者は参加報告を適切な時期及び内容で行うとともに、研修内容を関係職員間で共有する。併せて、研修成果の当館運営への反映について、適切な部署で討議する。</p>
有識者所見		関係機関と連携した防災避難訓練、AED使用訓練を実施し、利用者への安心安全を訴求していただきたい。特に、分館の防災に関しては、被災時を想定した本館の役割の明確化を願いたい。(加藤)			
		各職員のスキルアップのため、また常に新しい情報を共有するためにも、研修内容を共有できる取り組みを行ってほしい。(黒田)			
		研修結果報告は軽視されていないか。(石川)			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
②県民ニーズに則した運営					
A. 利用者数	・当該年度の利用者数 ・前年度比較による傾向	前年度比で、 本館 110% 大利根分館 105% 大多喜城分館 107%	○利用者数に関して、総人数、小中高大学生、団体等の分類で算出する。(括弧内は前年度) 【本館】 総入館者数: 184,059人 (193,443人: 95%) 個人: 175,091人(160,909)、団体: 158団体8,968人(276-13,607) 主催行事参加者総数: 12,890人(14,884人) HPアクセス数: 280,565件 (119,923件) 【大利根分館】 総入館者数: 36,803人(29,046人: 127%)達成 個人: 14,512人(10,375)、団体: 93団体22,291人(108-18,671) 主催行事参加者総数: 11,712人(10,678人) HPアクセス数: 14,058件(12,909件) 【大多喜城分館】 総入館者数: 82,292人(82,801人: 99%) 個人: 75,855人(76,358)、団体: 177団体6,437人(187-6,443) 主催行事参加者総数: 3,575人(3,672人) HPアクセス数: 29,541件(30,628件)	前年度比で、 本館 110% 大利根分館 110% 大多喜城分館 110%	【課題】 平成27年度目標値の達成に向けて、本館と大多喜城分館においては入場者数の段階的向上 H27総入場者数目標値 ・本館 250,000 ・大利根分館 23,000 (達成済み) ・大多喜城分館 96,000 【改善案】 学校等の団体に充実したサービスを提供し、団体利用者数の高位安定化と新規開拓に努め、常設展示利用者のペースアップを図る。
B. 満足度・ニーズ等の調査	・実施方法と結果 ・結果の事業への反映状況		○マーケティング等の調査を行っているか→ Yes(利用者満足度をアンケート調査) ・常設展示室に、自由記載方式のアンケート用紙を常備しており、意見等については、適時、館内周知し、回答の必要な件に関しては速やかに回答している。 ・企画展開催期間中は、展示会場内にアンケート用紙を設置している。 ・「音の風景」アンケート回収数は618件であった。 ・大利根分館企画展「利根川と文学」でのアンケート回収数は211件であった。 ・大多喜城分館企画展「上総の仏教美術」でのアンケート回収数は418件であった。		【課題】 展示会における指摘事項の担当者間での継承 【改善案】 展示会アンケートでの観覧者からの指摘事項(善悪にかかわらず)については、反省会を開催し、当該担当者から次回担当者へ確実に引き継ぎ、改善につなげる。
有識者所見	本館の利用者目標未達成については、その原因を究明し、27年度目標値の達成を願いたい。(加藤) 入場者数が段階的に増加していることは良い傾向。将来のリピータを獲得する意味も含めて、さらに改善案に取り組んで欲しい。アンケート結果が次回以降の企画展に反映される仕組みがなかったことは、これまでアンケートを記入してもらった方々に大変失礼だと思う。分野が異なる企画展でも、ぜひアンケート内容の引き継ぎをして欲しい。(黒田) 館とも利用者数増は評価されるべき。(石川)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目					
細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
3.施設・設備					
①アメニティーの向上					
A. バリアフリー	・ バリアフリー対策の実施状況	継続	○万人に対応した受け入れ態勢がとられているか→ Yes(本館・大根) / No(大多喜) ○大多喜城分館には、エレベーターが無く、車椅子利用者等の入館には、職員による介助で対応している。		【課題】 大多喜城分館へのエレベータ設置 【改善案】 耐震補強工事の際に合わせて実施する。
B. アクセス	・ 交通機関(含誘致)と駐車場の状況 ・ アクセス案内の状況	アクセス案内の改善	○交通関連のサインが適切に配置されているか。→ No(道路標識の増設が必要) ○館へのアクセスのインフォメーションが迅速かつ分かりやすく行われているか。→ Yes(電話・ネット等では適切)		【課題】 車で来館する利用者向けの案内表示 【改善案】 道路標識の増設について関係部局への働きかけを継続して行うとともに、引き続き、インターネット上でのわかりやすいアクセス情報の提供に努める。
C. ミュージアムショップ	・ 利用者満足度とニーズの把握状況 ・ 結果の反映状況	ミュージアムショップの充実	○ミュージアムショップは、平成25年度まで友の会が経営していた。		【課題】 利用者ニーズの把握と即応性 【改善案】 流行・季節・館事業に応じた柔軟な品揃えを、館から友の会に要請、提案する。また、職員が館オリジナルのミュージアムグッズを検討・開発し、その製作と販売を友の会に提案する。
有識者所見	ミュージアムショップからの友の会撤退について、本館もその因子についての認識を共有して対応を願いたい。(加藤) ミュージアムショップについて、委託業者に積極的に改善案おりの提案を続けていって欲しい。(黒田) 車への案内表示は改善余地あり。(特に大根分館)(石川)				
4.財源					
①予算の確保					
A. 入場料収入・その他の事業収入	・ 当初計画に対する収入の達成状況 ・ その他の収入の状況	当初収入計画 本館 15,225,000円 大根分館 641,000円 大多喜城分館 7,838,000円	○入場料収入 実収入(計画達成率%) 【本館】 12,140,900円(80%) 【大根分館】 457,980円(71%) 【大多喜城分館】 6,607,680円(84%) ○雑収入合計711,680円(前年度比129%) 雑収入内訳: ・ 売店・自動販売機等電気料金: 【本館】580,664円、 【大根分館】11,259円、 【大多喜城分館】60,747円 ・ コピーサービス: 【本館】15,310円 ・ 傷害保険本人負担: 【本館】39,900円、 【大根分館】1,500円、 【大多喜城分館】2,300円		【課題】 収入減による特定財源予算の大幅な年度末減額措置を防ぐ。 【改善案】 企画展等の事業については、歳入予算計画との大きなずれが生じないように、収入達成に向け努力する。とくに本館については、年度間の収入額に大きな変動が起きないように努める。 【課題】 新たな収入源を確保し、特定財源の拡大を図る。 【改善案】 主務課と協議し、物品等の直接販売の道を探る。
有識者所見	入場料収入の目標未達成の原因を究明され、充実し、魅力ある博物館経営に努められるようお願いしたい。(加藤) 入場者が増えているにもかかわらず、入場料収入が減っている。入館料の増加の対策は検討すべき。(黒田) 地元企業との事業等有料入館者増を工夫していきたい。(石川)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目					
②館独自の財源獲得					
A. 外部助成金等の獲得	・獲得計画に対する達成状況	目標値未設定	○外部資金(含県関連財団)を申請しているか。→ Yes ○外部資金(含県関連財団)を獲得しているか。→ Yes (19件 45,027,160円) 内訳 ・文科省科研費 11件 18,160,000円 ・その他の研究費 7件 25,877,160円 ・展示会補助 1件 990,000円	継続実施と採択増加を目指す	【課題】 外部資金獲得を博物館の恒常的な機能向上につなげる 【改善案】 間接経費が認められる文部省科学研究費につき、積極的に応募・申請するよう職員に促す。
有識者所見 研究機関と兼ね備えた博物館として、科研費の獲得を各職員が積極的に行って欲しい。(黒田) 事業によっては、民間資金導入が図れないものか模索中。(石川)					
5. 収集・保存及び活用					
①資料の管理と収集					
A. 収蔵点数と収集点数	・収蔵資料の件数と点数 ・新収集資料の件数と点数	目標値未設定	○台帳登録点数 【本館】 834038点(前年度815114点) 【大利根分館】 3698点(前年度3698点) 【大多喜城分館】 2011点(前年度2023点) 前年度からの減少は受託資料の返却による ○外部資金が獲得できているか。→ Yes ○寄贈・購入(平成25年度新規分) 【本館】 寄託: 歴史資料5件105点 仮保管: 歴史資料: 1件10点 寄贈 歴史資料: 1件347点 動物資料: 2件1879点 貴重書資料: 1件153点 購入 図書資料: 100点、雑誌: 314点 【大利根分館】 寄託: 14件5187点 寄贈 古文書・民俗資料: 1件1式 【大多喜城分館】 寄託: 66件809点 寄贈 歴史資料 1件1点	継続実施 継続実施	【課題】 予算不足 【改善案】 購入については、難しい状況にあるが、必要不可欠なものについては基金を活用する。寄託、寄附については職員個人の努力により収集を進める余地がある。 【課題】 予算不足 【改善案】 購入については、難しい状況にあるが、必要不可欠なものについては基金を活用する。寄託、寄附については職員個人の努力により収集を進める余地がある。
B. 登録	・収蔵資料の管理(台帳等整備)状況	目標値未設定	○台帳登録点数 【本館】 834038点(前年度815114点) 【大利根分館】 3698点(前年度3698点) 【大多喜城分館】 2011点(前年度2023点) 前年度からの減少は受託資料の返却による ○外部資金が獲得できているか。→ Yes	県費の確保と外部資金の獲得	【課題】 収蔵備品、消耗品購入予算の欠乏、不足、マンパワーの不足 【改善案】 備品費、消耗品費、賃金の必要性を強くアピールし、県費による予算を確保する。外部資金の獲得、個人の研究助成金などの獲得に努める

大項目		自己評価			課題と改善案	
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見		H26目標値
C. 維持管理と修復・保存処理	・ 定期的な維持管理の実施状況 ・ 資料の修復作業・保存処理の状況	・ 定期的な維持管理の実施状況	収蔵庫及び収蔵資料の定期的な状態把握と状況に応じた対処	○定期的に維持管理が行われているか。→Yes ○収蔵庫の温湿度管理は適切か。→Yes ○収蔵庫の出入者等を管理しているか。→Yes 収蔵資料の維持管理は、各担当者が適宜行っている。また、収蔵庫の環境管理は、資料管理研究科と設備管理委託業社により、適宜行うとともに、職員により定期的に収蔵庫の清掃を行っている。収蔵庫の出入りは資料毎の管理班員に限っており、部外者の出入りにも必ず職員が立ち会うようにしている。	継続実施	【課題】 老朽化した本館空調設備の改修 【改善案】 博物館資料を積極的に活用し、県民資産としての博物館資料の認知度を高め、中長期の視点に立った空調設備の改修計画について、主務課との協議を開始する。 【課題】 IPMの徹底 【改善案】 IPMの手法についての職員の認知を深める 【課題】 館内部での修復技術者の確保と養成 【改善案】 当面は、外注に必要な予算要求を継続する。 【課題】 未整理資料の蓄積 【改善案】 整理の遅れている分野について重点的に整理を進める。
			資料の状態に応じた適正な保存処理の実施	○資料の保存処理が適切に行われているか。→Yes ○保存処理の予算要求を行っているか。→Yes 収集から収蔵までの資料の保存処理は各資料系ごとに処理過程が異なるが、収集から収蔵まで担当研究員が責任をもって処理している。ただし燻蒸釜による処理については、資料管理研究科が実施。	継続実施 予算の確保	
			資料の状態に応じた適正な修復作業の実施	○修復作業の予算要求を行っているか。→Yes 修復が必要な資料の手当は、各担当者が随時手作業で行っているが、展示資料も含め大規模な資料修復の予算は獲得できていない。	継続実施 予算の確保	
			収集資料の台帳登録による管理	○収蔵資料を管理しているか。→Yes 登録資料は、紙ベースの台帳と情報システムによる電子データで管理している。	継続実施	
有識者所見	設備をより良い状態で維持していくことは、貴重な資料を次世代へ伝えるために行わなければならない博物館の使命でもあるので、是非空調施設の改善を実現して欲しい。(黒田) 中長期的に維持管理は要検討。(石川)					
③図書室の公開						
A. 図書資料の閲覧	・ 閲覧システムの構築状況 ・ 利用状況と利用者満足度	利用者の増加	○図書の閲覧が行われているか。→Yes 無料ゾーンの図書閲覧コーナーに図鑑・一般向けの図書を配架し、来館者が自由に閲覧できるようにしている。また、書庫の専門図書は希望があれば職員が出納し、閲覧コーナーでの閲覧が可能である。	継続実施	【課題】 図書閲覧コーナーの存在について、来館者への周知に努める。 【改善案】 図書閲覧コーナーの存在や館のレファレンスサービスについて、ウェブなども活用して県民への周知に努める。	
有識者所見	目標については、可能であれば数値化目標を設定していただきたい。(加藤) 改善案どおりに進めて欲しい。(黒田)					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目	評価の視点				
②資料の活用					
A. 要望に応じた貸出等	・ 研究や展示等、資料の貸出状況	用途、扱い等、資料の安全性確保した上での適正な貸し出しの実施	○要望に応じて資料を貸出等(閲覧・撮影・貸出・デジタル情報複製)をしているか。→ Yes 件数内訳: 【本館】 122件3091点(内デジタル42件278点) 【大根分館】 11件48点(内デジタル3件22点) 【大多喜城分館】 44件81点(内デジタル35件65点) 資料貸し出し要請に対しては、各担当者が依頼者の所属や申請された使用目的から妥当性を判断し、適正に対処している。 前年度: 【本館】 87件1800点(内デジタル29件763点) 【大根分館】 11件43点 【大多喜城分館】 34件94点(内デジタル28件37点)	昨年度並みの実施を目指す	【課題】 職員減、利用件数増加による業務量の増加。 【改善案】 (1)事務処理の効率化 (2)当館ウェブサイトにおける、利用手続きの周知。 情報システムに画像付きの登録件数を増やす。
有識者所見	目標については、可能であれば数値化目標を設定していただきたい。(加藤) 貸出要件に一定の基準は存在するのか?判定基準が統一されていれば、処理の効率化につながるのではない。(黒田)				
6.調査・研究					
①調査事業					
A. 調査事業の件数	・ 使命に基づく調査研究の実施状況	件数維持	→ Yes ①件数:12件 前年度比:120% ○当館では、千葉県海の自然誌に関する博物館として、「房総半島およびその周辺の海洋生物相とその特徴」を統一テーマとした調査研究活動を行っている。 ○研究員が共同で行う「総合分野研究」と、個々の自然誌系研究員がそれぞれの専門分野について個別に行う「詳細分野研究」の二つに大別され、「総合分野研究」を3件、「詳細分野研究」を9件の、計12件の調査研究を行っている。また、それらとの関連において、外部の機関とも共同した研究も行っている。	件数12件	【課題】 調査・研究の時間の確保し学術研究のレベルをアップする 【改善案】 海の博物館の使命は調査・研究、資料収集とその成果を県民に還元する展示、普及である。それぞれの業務に費やす時間のバランスを工夫し、調査・研究の時間を確保する。
有識者所見	海博は季節要因もあり、努力を評価したい。(石川)				
②外部との調査・研究					
A. 外部との調査研究の件数	・ 共同研究等の実施状況	目標値未設定	→ Yes ①件数:17件 前年度比:70%(平成24年度24件) ②共同研究の相手はどこか 千葉大学2件、東京情報大学、国立歴史民俗博物館2件、札幌大学、東京大学、慶応大学、富山大学、龍谷大学、宮崎大学、鹿児島大学、海洋研究開発機構、国立環境研究所、中国科学院昆明植物研究所、ニュージーランド国立水圏研究所、房総のヒメコマツ研究グループ	目標値未設定	【課題】共同研究の機会の確保 【改善案】研究職員の専門性や館の設備を活かして、他機関との共同研究を推進し、効率的な調査研究を実施する。
有識者所見	研究時間を確保していくことや、共同企画事業を行うことなどが必要になってくるのではない。(黒田) 継続してほしい。(石川)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目					
③研究成果の発表					
A. 展示等への反映	・ 展示への反映状況	研究成果を反映させた展示活動の実施	○研究成果を展示に反映させているか。→ Yes (展示件数: 31件) 内訳 【本館】22件 【大根分館】4件 【大城分館】5件	反映の充実を目指す	【課題】 目に見える形での研究成果の一層の還元 【改善案】 中央博物館で行われている先進的な研究や千葉県に根ざした地域研究など豊富で多様な研究成果を、広く県民の興味を引き付けるような展示手法を工夫して積極的に展示する。それにより博物館における専門研究員の必要性を県民に理解してもらう。
B. 研究成果の学術的公表(館独自項目)	・ 学会誌や館の報告書等への論文等執筆・公表状況	積極的な研究成果の公表	○論文執筆を行い、発表を行っているか。→ Yes 内訳 ・学術論文 81件 ・学術報告書 37件 ・普及書 115件 ・口頭発表 74件	充実を目指す	【課題】 研究成果の積極的な学術的公表による外部研究資金採択率の向上 【改善案】 科学研究費等の研究助成金を得た場合、高い評価を得られる方法で公表する。
有識者所見	研究成果の発表については、ホームページでも極力公開するよう努めていただきたい。(加藤) 研究成果の発表は、一般向けには展示に限るのでしょうか？研究成果公表には、各職員間での目標設定などが必要ではないでしょうか？(黒田) 県民への還元は広報面でも存在意義を高めるために望まれる。(石川)				
7. 展示					
①常設展示					
A. 展示の更新と保守・点数	・ 展示替の実施状況 ・ 保守・管理の実施状況	計画的な展示更新の実施 計画的な保守の実施	○展示替えについての計画があるか。→ Yes ○計画通りに展示替えが行われているか。 → Yes (6回14点) ○保守や管理の計画があるか。→ Yes ○計画通り行われているか。 → No ○保守・管理のための予算要求を行っているか。 → Yes ○展示中の事故は無かったか(職員・来館者)。 → Yes(無し)	継続実施 継続実施 予算確保を目指す	【課題】 展示更新の成果を入場者増に結び付ける。 【改善案】 展示更新の効果的な広報、展示解説等のサービスの実施。 【課題】 展示設備及び展示情報の老朽化・陳腐化への対応 【改善案】 利用者の安全性と快適性を確保するため、基本的な展示設備・備品の修繕予算を長期的な視点に立って要求する。同時に、予算をかけない情報更新の手法も検討する。
B. 満足度	・ 利用者満足度の把握状況 結果の反映状況	意見箱による入館者の意見を把握	○常設展示においては、意見箱を設置しており、入館者の意見を聴取している。 ○回答の希望者に対しては、適時、文書及び電話等において回答している。		【課題】 利用者満足度の向上とリピーター増を結び付ける 【改善案】 本館における約7000点の常設展示物を最大限有効活用するため、学校の学年・教科別の解説内容の変更、市町村に関連する展示品リストなど、利用者層に配慮したきめの細かい展示サービスを提供し、利用促進を図る。
有識者所見	満足度について、聴取した結果がどのようになっているのか。またそれをどのように改善策に結びつけていくのかが見えにくい。(黒田) 常設展示の少しずつでも更新されることを望みたい。(石川)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目					
②企画展示(変更)					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施状況 ・ 年齢・地域等入場者の動向把握 ・ 来館者満足度の状況 		<p>○展示企画数 【本館】1回、 【大利根分館】1回、 【大多喜城分館】1回</p> <p>○入場者情報の把握を行っているか。→Yes 企画展毎に展示室にアンケート用紙を設置し、展示担当者が、入場者動向を分析を行っている。</p> <p>○企画展毎に入場者アンケートを実施。 「音の風景」アンケート結果は、 ・展示テーマ設定:とても良い、良いが89.3% ・展示のわかりやすさ:ちょうど良いが82.1% ・全体の満足度:とても良い、良いが80.9%</p> <p>「利根川と文学」(大利根)アンケート結果は、 ・展示の満足度:満足91% ・展示の見やすさ:見やすかった85% ・展示のわかりやすさ:わかりやすかった89%</p> <p>「上総の仏教美術Ⅱ」(大多喜)アンケート結果は、 ・展示の満足度:満足63% ・展示の見やすさ:見やすかった86% ・展示のわかりやすさ:わかりやすかった84%</p>	<p>継続実施</p> <p>継続実施</p> <p>各項目80%以上</p>	<p>【課題】 アンケート結果を次期以降の展示計画に反映</p> <p>【改善案】 アンケート結果から県民の興味・嗜好性を分析するとともに、各種動向に配慮した展示企画を立案し、利用者増を図り、利用者の満足度を高める。</p>
有識者所見 企画展は有料入館者対策としても重要。(大多喜の仏教美術Ⅱは少し残念)(石川)					
③企画展示(変更なし)					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何回展示企画を実施したか。 ・ 入場者の動向把握を行っているか。 	<p>本館10回以上 大利根分館1回以上 大多喜城分館3回以上</p> <p>Yes or No アンケート実施</p>	<p>○展示企画実施数 【本館】 17回 【大利根分館】 4回 【大多喜城分館】 7回</p> <p>○入場者情報の把握を行っているか。→Yes 企画展毎に展示室にアンケート用紙を設置し、展示担当者が、入場者動向を分析を行っている。</p>	<p>継続実施</p> <p>継続実施</p>	<p>【課題】 アンケート結果を次期以降の展示計画に反映</p> <p>【改善案】 アンケート結果から県民の興味・嗜好性を分析するとともに、世界遺産の富士山など各種動向に配慮した展示企画を立案し、利用者増を図り、利用者の満足度を高める。季節のイベントに応じた展示会の開催を試みる。</p>
有識者所見					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目					
④館外での展示					
A. 企画数、利用者数、満足度	・ 実施状況(要望件数等) ・ 利用者が満足しているか	本館3回以上 大利根分館20回以上 アンケート等による把握 満足80%以上	○展示企画実施数 【本館】 8回(清和地区文化祭(山のFM):1回・さわやかちば県民プラザ:3回、県立東部図書館1回、県立中央図書館:2回、幕張メッセ:1回) 【大利根分館】 29件(学校向け移動展) ○概ね満足してもらっている。 アンケートは一部でしか実施していないが、上記の結果がを得ている。	継続実施 満足度アップを目指す	【課題】 県立博物館の存在意義を県内各地に周知 【改善案】 出前のニーズを高めるため、積極的な広報活動に努めるとともに、館内事業との連動性を高め、入館者増にもつなげる。
有識者所見		H26の目標には数値設定した方が良いのではないかと。(黒田) (美術館休館中の例からも)館外への展示は重要度を増す。(石川)			
⑤他館との合同企画による展示					
A. 企画数、利用者数、満足度	・ 実施状況(ネットワーク) ・ 利用者が満足しているか	3回 アンケート等による把握 満足80%以上	○展示企画数 → 3回 ○ネットワークの活用 → Yes 【本館】 地域連携展「世界の音を聴こう」(千葉市科学館) 【大利根分館】 移動美術館(県立美術館) 【大多喜城分館】 移動美術館(県立美術館) ○アンケート結果(有効回答121通) 展示の満足度:面白かった以上78% 示の難易度:解り易い以上82%	継続実施 アンケートによるニーズ把握を行う。	【課題】 館種を超えた広範な連携関係の確立 【改善案】 本館については県内最大規模の総合博物館であることと、大利根分館、大多喜城分館については、それぞれの地域における中核的な博物館であるという利点を活かし、県内の小規模館、文書館、図書館等、他の公共施設の状況に応じた連携展示企画を立案し、提案する。
有識者所見		ネットワーク強化に(積極的に)取り組んでほしい。数値目標は設定した方がよいのでは。来場者の満足度アップにも何が 필요한のか、検討して欲しい(黒田) 継続大いに賛同。博物館の存在を周知させていきたい。(石川)			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目	評価の視点				
9.情報の発信					
①県民への直接的情報提供					
A. 電話・来館面接等の質問	・ 件数と対応状況	誠実な対応	○県民からの問い合わせ等に対応しているか。→Yes 学習情報センターでの来館者対応実績 ・質問対応:184件+学情以外942件 ・コピーサービス利用者:74件922枚 ・書庫資料閲覧請求:12件59冊 電話等での問い合わせ対応 ・約1,150件	継続実施	【課題】 質問対応の意義を広く県民にアピール 【改善案】 問合せ実績をQ&Aとして公表するなど、広報活動に努める。
有識者所見	電話対応学校より好評あり。(石川)				
②メディア					
A. 館事業(含調査研究)の情報提供	・ 提供件数	積極的、効果的な情報発信	○メディアへ館の情報を定期的に発信しているか。→ Yes 件数170件(約768回) ○メディアからの協力要請に対応しているか。→ Yes 件数 83件 【本館】 58件 【大利根分館】 7件 【大多喜城分館】 20件 ○メディアへの掲載および放映は増えたか。 →Yes 件数199件 メディアへの情報発信は、簡潔で宣伝効果の高い広報資料を整え定期的実施している。24年度より、都内開催の在京メディアレジャー記者会での情報発信や県内ミニコミ誌、専門系雑誌など従来とは異なる提供先を増やす努力をしたため定期的な発信件数が急増した。各種メディアからの取材や館情報提供要請、ならびTV等の番組制作者からの協力要請には、原則的に全て対応している。専門分野における問い合わせ等はかなり多い。テレビCMや県のイベントへも積極的に協力した。	前年度並み	【課題】 広報効果の高い主要メディアの文化芸術欄・科学欄への常時掲載と共に、地域に密着した情報誌への掲載。情報提供の時期と企画の進捗状況のすり合わせ。役務費の確保。 【改善案】 魅力的な事業の企画立案とメディアへの効果的な情報発信のための館内努力。情報提供に係る役務費を確実に確保する。
有識者所見	今後も積極的に取り組んで欲しい。(黒田) かなり改善が図られてきた。(石川)				
③ホームページ					
A. ホームページによる情報発信	・ 更新件数 ・ 資料登録件数の状況 ・ アクセス数の状況	アクセス数の増加(システムリニューアル後の効果として)	○定期的な更新がなされているか。→ Yes 【本館】100回(前年度201回) 【大利根分館】12回(12回) 【大多喜城分館】12回(12回) ○アクセス件数はいくらか。 【本館】280,565件(112,923件) 【大利根分館】14,058件(12,909件) 【大多喜城分館】29,541件(30,628件) ○システム登録点数はいくらか。 【本館】156,374点(135,733点) 【大利根分館】2,047点(2,047点) 【大多喜城分館】1,030点(1,025点)	両分館に関して、アクセス数の増加	【課題】 分館のHPアクセス数の増加 【改善案】 詳細なイベント情報をHPに掲載することにより、HPアクセスの増加及び来館者数の増加を図る。
有識者所見	情報更新の頻度を更に高めることでアクセス件数は増加するので、発信情報の更新頻度を高めていただきたい。(加藤) 更新を増やす、日ごとの状況を発信するなどして、来館者にとってHPを見た方が得、の状況を作って欲しい。(黒田) 改善されている。引き続き充実願いたい。(石川)				

大項目		自己評価			課題と改善案	
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見		H26目標値
④刊行物						
A. 印刷物による広報	・ 種類と部数	効果的な印刷物の作成と配布	効果的な印刷物の作成と配布	○印刷物等の刊行により、館事業の情報提供及び広報活動を計画的に適切な時期をもって行っているか。→ Yes 32種類(既存資料の増刷は除く) 【本館】 20 種類 【大根分館】 5 種類 【大多喜城分館】 3 種類 ○時期は適切か。→ Yes 次年度の年間行事予定や利用者案内/パンフは、前年度3月初旬、年報等、前年度活動は、年度内の早い時期を目指しているが、一部は年度末ギリギリとなってしまった。展示等の当該年度事業は、事業実施の約2カ月前までの完成を目指している。	継続実施	【課 題】 印刷費の恒常的な不足への対応 【改善案】 一部の印刷物はウェブページ上からPDFをダウンロードできるようにする。
	・ 配付等の状況	効果的な印刷物の作成と配布	効果的な印刷物の作成と配布	○印刷物等の刊行により、館事業の情報提供及び広報活動を計画的に適切な時期をもって行っているか。 → Yes 32種類(既存資料の増刷は除く) 【本館】 20 種類 【大根分館】 5 種類 【大多喜城分館】 3 種類 ○時期は適切か。→ Yes 次年度の年間行事予定や利用者案内/パンフは、前年度3月初旬、年報等、前年度活動は、年度内の早い時期を目指しているが、一部は年度末ギリギリとなってしまった。展示等の当該年度事業は、事業実施の約2カ月前までの完成を目指している。	継続実施	【課 題】 印刷費の恒常的な不足への対応 【改善案】 一部の印刷物はウェブページ上からPDFをダウンロードできるようにする。
有識者所見	PDF配付は良いと思う。スマートフォンに対応したフォーマットで公開できれば、館内用配付資料の印刷数も減らせるかも知れない。(黒田) なし。(予算不十分の中で、努力は評価する)(石川)					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目	評価の視点				
10. 県民参画					
① 県民との協働					
A. ボランティア	・ ボランティア活用システムの構築 登録者数と活動状況	ボランティアの有効活用と活動の場の増大	○ボランティアを配置しているか。→ Yes 【本館】(展示室、生態園、資料整理、イベント、研究、ボランティア等7類型) ・人数: 189人(H25.3) ・活動日数: 2,073人日 【大多喜城分館】(体験教室) ・人数: 16人(H26.3) ・活動日数: 101人日	継続実施	【課題】 昨年度より50人以上増加した。さらに登録者数を増やし、生涯学習の場として活用してもらう。 【改善案】 すべての業務について、ボランティア参画の可能性を検討する。
	・ 育成のための研修等の実施状況	効果的な研修の実施	○ボランティア育成の研修を行っているか。→ Yes 研修会: 5回(85人参加) 展示会にあわせた展示解説、図書室利用に関する研修会を行っている他、各活動毎に担当職員による研修を随時行っている。新人ボランティアについては、博物館概要、関係施設、展示についての研修も行っている。	継続実施	【課題】 ボランティアの士気の維持向上 【改善案】 展示ボランティアと職員の意見交換会などにより、ボランティアが気付いた博物館運営の問題点等を意見として汲みあげる仕組みを構築する。他の博物館のボランティアとの交流も進める。
B. 県民からの情報提供	・ 情報入手体制の状況 ・ 対応状況	情報提供の受け入れと活用	○県民からの情報入手体制の有無→ Yes 当館では、個々の職員レベルで県民との双方向の交流が日常的になされており、実際、県民からの情報提供と大学との連携が元になって昨年度、植物の新種(イスマズカケ)発見がなされるなど、県民からの情報が活かされている。	継続実施	【課題】 【改善案】特記事項なし
C. 友の会	・ 会員数(増減) ・ 活動状況(館との連携・単独事業)	友の会活動の支援	○友の会活動が効果的に行われているか。→ No ・友の会会員数: 430人(H25年2月末現在) ・友の会行事: 36回(内14回に館員を講師派遣) ・博物館との連携行事: 20回 ・企画・特別展でカイズ連携実施: 46回(会期中毎週末) ・友の会ニュース発行: 3回(毎号に複数館員が寄稿)	新たな支援組織の育成	【課題】 平成25年度末で友の会が解散し、支援組織がなくなった。 【改善案】 新たな支援組織育成の検討
有識者所見		県民との協働の観点から、友の会解散の因子を取り除き、早急に新たな組織の立ち上げを願いたい。(加藤) 新たな支援柱々木について、前回の反省を生かして育成を行って欲しい。(黒田) 友の会について要検討。(石川)			
② 外部との連携・調査					
A. 実施の状況	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 実施状況	効果的な連携事業の実施	○連携システムが構築されているか。→ Yes(本館のみ) ・市民団体・NPO等との連携事業 58件 ・学会研究会等委員・役員 76件	継続実施	【課題】 【改善案】 特記事項なし
有識者所見					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目					
11.人材育成					
①博物館実習					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 回数、校数と参加者数	前年度並みの実習の実施	○博物館実習を行っているか。 → Yes 24名(14校)9日間(自宅研修1日を含む) ・実施場所:本館 ・うち2名は大多喜城分館で4日間、別の2名は海の博物館で4日間実習	継続実施	【課題】 人数が多すぎて、時間的・スペース的に行き届いた指導が必ずしもできない。 【改善案】 人数を20名程度に抑えつつ、講義形式の授業を減らす一方、展示解説実技など自ら考える実習プログラムを増やす。
有識者所見		改善案どおりに努めて欲しい。(黒田)			
②教員等研修					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 回数、校数と参加者数	前年度並みの研修の実施	○教員研修を行っているか。→ Yes(21件310人) 【本館】20件 290人 【大多喜城分館】1件 20人	継続実施	【課題】 単なる教員研修ではなく、博物館を有効活用できる教員を増やすような研修機会の企画 【改善案】 博物館利用研修会等の継続的な開催や、教員団体系来館時の解説会の設定、総合教育センターと連携した博物館での教員研修プログラムの設定をおこなう。
有識者所見		将来の団体利用へ繋がられるような研究を行って欲しい。(黒田)			
③職場体験学習・インターンシップ					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 回数、校数と参加者数	前年度並みの受け入れ	○職場体験をうけいれているか。 → Yes 【本館】 ・職場体験(中学生):20校53人 ・インターンシップ(大学生)5校5名	前年度並み	【課題】 職場体験は希望の定期的集中などもあつて応じきれない。 【改善案】 館と学校・生徒の双方にとってメリットを生む職場体験内容への改善。
有識者所見		博物館周知上でも大切な課題。積極的に取り組みたい。(石川)			
12.県民等からの依頼による学習支援					
①展示等の活用					
A. 解説の回数、利用者数と満足度	・ 回数と利用者数 ・ 利用者ニーズの把握状況	要望に応じた解説の実施	○展示解説を行うシステムがあるか。→ Yes 依頼を受けて行った団体解説 【本館】 博物館学習対応 17件 1,118人 その他団体解説 43件 897人 【大利根分館】55件 9,734人 【大多喜城分館】52件 1,758人	前年度並み	【課題】 外部からの依頼へのきめの細かい対応 【改善案】 学校団体には、来館時に、単なる見学ではないオーダーメイドの学習プログラム(博物館学習)を提供できる体制をさらに進める。
有識者所見		少人数職員での、分館の展示解説件数は評価できる。(加藤) 改善案どおりに努めて欲しい。(黒田)			
②館内での講座・講演会					
A. 回数、利用者数と満足度	・ 回数と利用者数 ・ 利用者ニーズの把握状況	要望に応じた講座等の実施	○講演会等の要望に応じるシステムがあるか。 → Yes 【本館】54件 1,029人 【大利根分館】3件 98人 【大多喜城分館】7件 91人	前年度並み	【課題】 【改善案】特記事項なし
有識者所見		要望に応じるシステムとはどのようなもので、どのように活かされているのか?(黒田)			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目					
③学校連携					
A. 学校団体の受入	・ 受入校数と回数、人数 ・ 利用者ニーズの把握状況	前年度並みの受け入れ	○要望に応じるシステムになっているか。→ Yes 内訳 【本館】 94校 5,299人 【大利根分館】 65校 13,753人 【大多喜城分館】 27校 973人	前年度並み	【課題】 学校が校外に出られる時間数が減少する中で、学校団体の利用の維持・拡大(特に本館について) 【改善案】 教科学習の時間を使つての来館を促せるような、常設展・企画展示と教科との関連づけを図り、資料や展示室環境の整備や、その広報、周知活動に努める。
B. 出前授業	・ 実施校数と回数、人数 ・ 利用者ニーズの把握状況	前年度並みの受け入れ	○出前授業の受け入れ態勢があるか。→ Yes 内訳 【本館】 35件 975人 【大利根分館】 22件 6,619人 【大多喜城分館】 2件 46人	前年度並み	【課題】 学校の授業に役立つ博物館であることを県民に周知 【改善案】 学習キットなどを充実するとともに、館業務とのバランスをとりながら、学校のニーズに合った研究員派遣の体制を整備する。
有識者所見		特に出前授業は好評なので、積極的に取り組みたい。(石川)			
④外部講師依頼					
A. 依頼の状況、回数と人数	・ 支援体制の状況 ・ 回数と参加者数 ・ 利用者ニーズの把握状況	要望に応じた講師派遣等の実施	○外部講師の依頼を受けているか。→ Yes ○支援体制が構築されているか。→ Yes ・大学非常勤講師 10件(分館職員を含む) ・各種研修等講師 163件(分館を含む:開催場所館外の学校以外の講座等講師)	前年度並み	【課題】 講師派遣・外部支援に際しての、当館および相手方双方のメリットの向上。 【改善案】 当館の特性などをよく説明して相手方に御理解いただいた上で、相手方のニーズと当館の専門性・人材とがマッチするよう適切にコーディネートする。
有識者所見		特に出前授業は好評なので、積極的に取り組みたい。(石川)			
13. 地域づくりへの支援					
①地域との連携事業					
A. 機関・地域住民等との連携	・ 実施状況(種類と件数) ・ ニーズの把握の状況	目標値未設定	○地域との連携事業を行っているか→ Yes 【本館】 ・3館連携企画「ちば生きもの科学クラブ」(千葉市科学館、千葉市動物公園) 20人 【大利根分館】 ・市民参画の写真展の開催(私が撮った水郷 2013) 681人 ・市民参画のイベントの開催(昭和の名車大集合2) 2130人 【大多喜城分館】 ・町のイベントへの協力(分館施設利用) ＜大多喜さくらまつり＞ 705人 県立大多喜高校:茶道部 「茶席、マンドリンギター部「マンドリンギター演奏」 大多喜町有志:和琴、大正琴演奏 ＜大多喜お城まつり＞ 1,086人 県立大多喜高校:茶道部 「茶席」 大多喜町有志:琴演奏 体験教室「甲冑・小袖の試着」 29人	前年度並み	【課題】 地域振興の拠点としての認知度の向上 【改善案】 本館:企画展等開催時、市内の社会教育機関・企業等との間に相互メリットのある連携を進める。 分館:所在地自治体と連携した事業の強化
有識者所見		本館の地域連携事業の拡大を望みたい。(加藤) 改善案どおりに努めて欲しい。(黒田) 地元企業と接点の持てる事業を考えていきたい。(石川)			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目					
②観光資源としての活用					
A. 県外団体来館数	・ 団体数 ・ 地域等の傾向	継続	○県外団体の利用： 109件 【本館】 16件(東京11、埼玉2、他3) 【大利根分館】 10件(茨城8、東京2) 【大多喜城分館】 96件(東京33、埼玉25、茨城13、他25) * 団体申し込み票において確認(過小評価の可能性あり)	前年度並み	【課題】 当館来館を県外団体のツアー・コースに組み入れてもらうことにより、地域経済の活性化に貢献 【改善案】 首都圏の旅行社等への広報資料の提供
B. 外国人入場者数	・ 利用者数 ・ 地域等の傾向	目標値未設定 (方法を検討)	○外国人利用者数 734人 【本館】 82人 【大利根分館】 4人 【大多喜城分館】 510人 * 視覚、事前情報をもとに計数(アジア系等計数漏れあり) 外国人向けには、本館と大多喜城分館で英文表記の利用案内パンフレットを用意している。	前年度並み	【課題】 多言語での案内パンフレットの印刷 【改善案】 印刷予算の要求を継続的に行う。
有識者所見	本館においては、基幹施設として、観光資源化の試みの展開を願いたい。(加藤) どのように対応するかを決めておく、成田空港での広報なども必要では。(黒田)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
1.使命と計画					
①中長期計画					
A. 目標と計画・重点事業の構築、事業への活用	<ul style="list-style-type: none"> 目標の設定、具体的計画の策定状況 事業への活用状況 	継続	<ul style="list-style-type: none"> 年次計画はあるか。→ Yes 事業等の優先順位を付けているか。→ Yes年次計画による優先順位 実施スケジュールを立て予算要求しているか。→ Yes 年次計画による要求 事業実施に至っているか。→ Yes年次計画に沿った運営を行っている 		<p>【課題】年次計画の実施 中長期計画の更新。職員の異動に伴う展示計画等の変更</p> <p>【改善案】東日本大震災(3.11東北地方太平洋沖地震)の影響を含む臨海の博物館を取り巻く社会環境の変化や地域に関わる問題について、近隣の関連施設との協議も行って十分に把握し、事業の進捗状況を確認するとともに、必要な場合は年次計画を修正しながらすすめる。また、各自の分掌や役割分担を明確化するとともに、柔軟性をもって計画された事業を実施する。</p>
有識者所見	予算職員数、事業を勘案し、優先事項や強化年等も考えることあるのではないのでしょうか。(戸枝)				
②評価の実施					
A. 評価の実施と結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価及び外部評価の実施状況 P.D.C.A.サイクルへの反映状況 	継続	<p>自己評価は毎年度実施している。また、事業毎にアンケートをとるなどして改善に努めている。</p> <p>事業計画の立ち上げ段階から前回事業の評価を踏まえての検討を行い、当館の使命に準拠し、より効果的な事業実施を目指すように努めている。また、事業終了後は実施報告を行って事業の評価確認することにより、続く事業での改善につなげている。</p>		<p>【課題】海の博物館の事業内容に即した評価</p> <p>【改善案】海の博物館の使命には、調査・研究、資料収集とその成果を県民に還元する展示、普及があり、これら全体をバランス良く評価することが重要である。今後も評価方法や項目等をさらに検討しながら、より良い博物館活動の実施に反映できるようにしたい。</p>
有識者所見	事業ごとのアンケートや実態調査を行い、以後の事業へ反映させてください。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
2.組織と運営等					
①組織・人員					
A. 職員の研修	<ul style="list-style-type: none"> 研修への参加体制の整備状況 参加状況(種類・件数・人数) 	継続	→ Yes 本館経由による研修会の通知等は、全員に回覧し研修希望職員については、予算の範囲内において可能な限り受講の機会を与えている。		【課題】予算の不足への対応 【改善案】予算的に不足しているため、参加する研修(学会を含め)は話し合いにより調整する。また外部資金の獲得に努める。
有識者所見	研修には極力参加し、職員の知識・技術の向上と、館の周知、資料情報等の収集を図っていただきたい。(戸枝)				
②県民ニーズに則した運営					
A. 利用者数	<ul style="list-style-type: none"> 当該年度の利用者数 前年度比較による傾向 	5%増67,100人	①利用者数に関して、総人数、小中高大学生、65歳以上、団体等の分類で算出する。総入館者数:61,210人、累計:1,920,895人、個人:55,641人、団体数:143団体、団体人数:5,569人 一般:31,383人、高大生:1,708人、乳幼児:5,397人、小中生:12,420人、65歳以上:10,302人 情報問い合わせ件数:803件、参加体験事業参加者総数:8,062人、HPアクセス数:41,642件。②上記の各分類別の対前年度比を算出する。総入館者数:95.8%、個人:95%、団体数:130%、団体人数:110.5%、一般:93.9%、高大生:111%、乳幼児:91.1%、小中生:96.3%、65歳以上:101.9% 情報問い合わせ件数:99.0%、参加体験事業参加者総数:191%、HPアクセス数:67.8%、資料閲覧件数:— ○入館者動員67,100人(前年度比105%)の目標に対し、秋の台風の襲来、2月3月の寒波(降雪、時化)が週末の時期に当たり多数の来館者が見込める日が臨時休館または開館しても来館者が見込みより大幅減の日となった。このため目標達成どころか前年度の入館者数も下回った。 ●目標値・指標:未達成(達成率:95.8%)		【課題】入館者の増加 【改善案】東日本大震災の風評被害も落ち着いてきたようであるが、入館者が安心して見学できるように、引き続き海の安全性や緊急時の避難方法を説明するとともに、24年度からリニューアルされたHPの内容の充実及び各メディアを積極的に活用した広報活動により、一般だけでなく、県内外の児童・生徒・学生団体等に対しても博物館のPRを図る。 また、常設展示以外の企画展示や体験活動の充実に努め、子どもたちに人気のスタンプラリーを継続し、さらに隣接する勝浦海中公園センターや地元の観光宿泊施設等と連携し、地域特性をいかした事業展開及び広報活動を取り入れて集客力のアップをはかる。
B. 満足度・ニーズ等の調査	<ul style="list-style-type: none"> 実施方法と結果 結果の事業への反映状況 		→ Yes 展示室において自由記載方式のアンケート用紙を常備している。それにより、展示内容・料金等に関する意見は、概ね把握している。		【課題】マーケティング調査の改善 【改善案】現在は、自由記述方式のアンケートだけなので、マーケティング調査の方法を検討する。
有識者所見	東日本大震災時の津波被害の記憶、来館時の公共交通機関の不便さ等を勘案すると、ホームページへのアクセス数を増加させて来館者数を増やす努力が必要ではないか。(加藤) 引き続き、入館者のため広報活動を行ってください。来館方法と広報活動について、考える必要があるように思われます。緊急時の避難(館内・屋外)について、迅速な周知、避難方法について十分な検討が必要と思います。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
3.施設・設備					
①アメニティーの向上					
A. バリアフリー	・ バリアフリー対策の実施状況	継続	→ Yes 一般来館者が利用するエリアにおいては、車椅子用スロープ、点字ブロック、障害者用トイレ、専用駐車スペースを設け、バリアフリーの対応を行っている。		【課題】身体が不自由な方々への対応 【改善案】車椅子の貸し出しや職員による介助も、必要に応じ行う。改修・修繕の必要がある場合は最優先で行う。また、バリアフリーはインフラだけではなく多様であるので、言語等のバリアフリー等も含めて改善していきたい。
B. アクセス	・ 交通機関(含誘致)と駐車場の状況 ・ アクセス案内の状況	アクセス案内の改善	①公共交通機関が効果的に機能しているか。→No ②駐車場の確保が行われているか。→ Yes ③交通関連等のサインが適切に配置されているか。→Yes ④館へのアクセスのインフォメーションが迅速かつ分かりやすく行われているか。→ Yes ・鉄道等公共交通機関利用者については、JR・路線バスの運行本数が少なく、路線バスについては土曜日だけの運行になっているため平日におけるアクセスが不便である。 ・自家用車利用者については、駐車場の確保及びサインについては、概ね良好だがGW・お盆の時期は駐車場が過密状態となり、交通誘導員を配置したり、職員による誘導等を行っている。 ・館へのアクセスについては、HPでの案内の他、幹線道路に看板を設置している。また利用案内にも地図等を掲載している。		【課題】アクセス案内の改善 【改善案】所見欄に記載したような改善を図っているが、看板の設置など改善する点は多々ある。隣接する勝浦海中公園センターは東京駅の構内など多くの場所に広告があり知名度が高いため、同公園に隣接していることを表示する。また、同公園と海の博物館のHPに互いの情報(隣接している)を掲載している。また、宣伝という観点からも隣接する同公園の看板に当館の情報をいれてもらうなどの改善策を検討する。
C. ミュージアムショップ	・ 利用者満足度とニーズの把握状況 ・ 結果の反映状況		→ 該当無し 当館にはミュージアムショップは無い。		【課題】 【改善案】
有識者所見	来館方法とアクセスサインの効果も調査されてはどうか。バリアフリー対策の充実は今後、それを必要とする団体への利用増も見込まれますので、進めていただきたい。多言語を使った説明方法についても検討を進めてください。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目		4.財源			
①予算の確保					
A. 入場料収入・その他の事業収入	<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画に対する収入の達成状況 ・その他の収入の状況 	入場料収入:5%増 5,645,000円 その他事業収入:5%増 9,778,000円	<ul style="list-style-type: none"> ・入場料収入: 4,982,420円 (H24:5,376,200)前年度比: 92.7% ○昨年度を下回り、目標達成には至らなかった。入館者の減少が原因と考えられる。 ●目標値・指標:未達成(達成率88.3%) ・駐車場収入: 9,522,800円 (H24: 9,312,700円) 前年度比:102.3% ○目標には達しなかったものの前年度を上回った、電車、バスでなく自家用車での来館が増えたことが考えられる。 ●目標値・指標:達成(達成率97.4%) 		【課題】東日本大震災の風評被害は回復傾向であるが、積極的な広報活動やHPの充実等により有料入館者の年齢層にPRして集客し、入場料収入全体の増加を図る。 【改善案】入場者数の増加と同じ
有識者所見		自家用車での来館が多いので、属性調査を行い、効果的な広報活動を考えてください。(戸枝)			
②館独自の財源獲得					
A. 外部助成金等の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・獲得計画に対する達成状況 	目標値未設定	①外部助成金等(含県関連財団)を申請しているか。→ Yes ②外部助成金等(含県関連財団)を獲得しているか。→ Yes ③獲得件数:6件 ・獲得金額: 5,677,775円 →①研究員は、外部資金も導入してより充実した博物館活動を実践するために、文部科学省科学研究費等に毎年応募している。 →②③本年度は、文部科学省科学研究費が4件採択され(うち研究代表者となっているもの2件、研究分担者となっているもの2件)、4,680,000円の交付を受けた。また、企画展示の実施に際し、日本財団への助成申請が採択され、597,775円の助成を受けた他、一般財団法人海苔増殖振興会からの助成金400,000円を受けた。	目標値未設定	【課題】助成金の獲得 【改善案】企画展示用、研究用の助成金について積極的に申請を行う。 また、学術研究のレベルを向上させ共同研究を多くすることにより外部からの財源を獲得する基盤を整える。
有識者所見		少人数の中で、多くの外部助成を獲得したことは高く評価できる。(加藤) 改善案に基づき進めてください。(戸枝)			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目	評価の視点				
5.収集・保存及び活用					
①資料の管理と収集					
A. 収集点数と収集点数	・ 収集資料の件数と点数 ・ 新収集資料の件数と点数	500点増	収集点数 ①収集点数:59,872点 ②新収集資料点数:850点 ○当館では海洋生物を専門とする自然誌系研究員が各自年間100点の資料収集を目標としている。平成25年度は計850点の資料を新たに登録した。 ●目標値・指標:達成(170%)	600点増	【課題】資料収集の時間を確保し、収集点数を増やす 【改善案】調査・研究、資料収集とその成果を展示・普及活動として県民に還元するため各業務にかかる時間のバランスを工夫し、資料収集を行う時間を確保する。
B. 登録	・ 収集資料の管理(台帳等整備)状況	目標値未設定	収集資料の管理が適切に行われているか。→Yes 収集した海洋生物の標本、写真等は、登録番号を付して、各分類群や資料形態ごとに台帳やデータベースに記載・登録し、管理している。管理は、各分類群や資料形態ごとに決めた担当者を中心に行っている。	目標値未設定	【課題】資料管理のための時間を確保し、適切な管理を行う。 【改善案】展示・普及活動にかかる時間とのバランスを工夫し、資料登録後のデータベースへの記載などの業務にかかる時間を確保する。
C. 維持管理と修復・保存処理	・ 定期的な維持管理の実施状況 ・ 資料の修復作業・保存処理の状況	目標値未設定	①定期的に維持管理が行われているか。→Yes 収集資料の維持管理に関しては、各分類群担当者が適宜行っている。本年度から、乾燥収蔵庫の入口に、靴裏の付着物が収蔵庫に入るのを防ぐための粘着シートを設置した。 ②収蔵庫の温湿度管理が適切に行われているか。→Yes 各収蔵庫の環境管理は、収蔵庫管理担当者ならびに設備管理委託業社社員(常駐)により、適宜行っている。 ③収蔵庫の入出者等の管理が行われているか。→Yes 入口に入室の有無を室外から確認できるように表示を設置した。 ①資料の修復作業が適切に行われているか。→Yes ②修復作業の予算要求を行っているか。→Yes 修復は研究員ができるものは、できる限り行っている。 ①資料の保存処理が適切に行われているか。→Yes ②保存処理の予算要求を行っているか。→Yes 資料の保存処理に係る予算は、毎年要求を行い、配当を受けている。	目標値未設定	【課題】収蔵庫への入室者の管理 【改善案】収蔵庫内へ外部者を入れる場合には、必ず担当職員が立ち会い、事故のないように配慮する。また、受付で外部からの入館者をチェックを徹底し、不審者の入館を防止する。 【課題】資料を適切に修繕する 【改善案】修復が必要な資料の手当は、各担当者が随時行う。ただし、業者に修繕を委託する必要がある場合など予算が必要な物件に関しては、予算を確保して修繕する。 【課題】資料の適切な保存処理をする 【改善案】資料収集後、速やかに処理を行い、短時間のうちに、登録、収蔵庫への保管を行う。
有識者所見	資料の新規登録が多く充実している。収蔵庫入り口の粘着シート設置や入退室チェック、担当者立ち会い入室など資料保存に注意を払っている。粘着シートの効果等を継続して観察してください。「資料」は博物館の命です。修復が必要な資料については、可能な限り、迅速に行ってください。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
②資料の活用					
A. 要望に応じた貸出等	・研究や展示等、資料の貸出状況	目標値未設定	①要望に対して資料の貸し出し等を行っているか。→ Yes ②件数: 15件(76点), 前年度比: 93.8%(平成24年度は16件77点) →資料貸し出し要請に対しては、各担当者が依頼者の所属や申請された使用目的から妥当性を判断し、適正に対処している。	目標値未設定	【課題】利用資料のデータベース化の促進 【改善案】登録資料のデータベース化を促進し、利用可能な資料のリスト整備する。
有識者所見		収集・保存については、意欲的に適切に行われており評価できる。(加藤) 資料貸出については、館の貸出規定により適正に対処してください。データベースについては、改善案に基づき進めてください。(戸枝)			
③図書室の公開					
A. 図書資料の閲覧	・閲覧システムの構築状況 ・利用状況と利用者満足度	目標値未設定	①収蔵冊数: 1,882冊 未製本の学術雑誌は、1種類1冊として計数。	目標値未設定	【課題】図書購入費がなく、最新の情報入手に支障が生じている。 【改善案】図書購入の予算を請求し、予算を確保する。寄贈を受けられる図書については、引き続き寄贈の打診や依頼を行っていく。
有識者所見		目標を設定して、積極的に図書、資料の公開を進めていただきたい。(加藤) 改善案に基づき進めてください。(戸枝)			
6.調査・研究					
①調査事業					
A. 調査事業の件数	・使命に基づく調査研究の実施状況	件数維持	→ Yes ①件数: 12件 前年度比: 120% ○当館では、千葉県海の自然誌に関する博物館として、「房総半島およびその周辺の海洋生物相とその特徴」を統一テーマとした調査研究活動を行っている。 ○研究員が共同して行う「総合分野研究」と、個々の自然誌系研究員がそれぞれの専門分野について個別に行う「詳細分野研究」の二つに大別され、「総合分野研究」を3件、「詳細分野研究」を9件の、計12件の調査研究を行っている。また、それらとの関連において、外部の機関とも共同した研究も行っている。	件数12件	【課題】調査・研究の時間の確保し学術研究のレベルをアップする 【改善案】海の博物館の使命は調査・研究、資料収集とその成果を県民に還元する展示、普及である。それぞれの業務に費やす時間のバランスを工夫し、調査・研究の時間を確保する。
有識者所見		1-②に同じ。(戸枝)			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目					
②外部との調査・研究					
A. 外部との調査研究の件数	・ 共同研究等の実施状況	目標値未設定	→ Yes ①件数:14件 前年度比:58.3%(平成24年度24件) ②共同研究の相手はどこか 国立歴史民俗博物館、琉球大学2件、東京大学、お茶の水女子大学2件、東京海洋大学、長崎大学、東北大学、新潟大学、国立環境研究所、独立行政法人水産総合研究センター、Yale大学、Copenhagen大学	目標値未設定	【課題】共同研究の機会の確保 【改善案】研究職員の専門性や館の設備を活かして、他機関との共同研究を推進し、効率的な調査研究を実施する。
有識者所見	少人数の中で、多くの内部、外部との調査研究を行っていることは評価できる。(加藤) 1-②に同じ。改善案に基づき進めてください。(戸枝)				
③研究成果の発表					
A. 展示等への反映	・ 展示への反映状況 ・ 普及事業への反映状況	10件	→ Yes ①企画数 8件, 前年度比62% (H24:13件) → 調査研究活動で得られた成果は、随時、展示や講座、等の教育普及活動に反映させている。		【課題】研究成果を展示に反映させる 【改善案】マリンスイェンスギャラリーと収蔵資料展については、年次計画を作成し、実施に向けての調査研究活動を充実させる。また、研究成果があったときに、小規模の展示を迅速に行うようなシステムを構築する。
B. 研究成果の学術的公表(館独自項目)	・ 学会誌や館の報告書等への論文等執筆・公表状況	研究職員ひとりあたり、学術論文・学術書1件(計8件)、学会発表1件(計8件)、一般向けの執筆2件(計16件)	①研究成果を学術雑誌、学術書等で公表しているか→ Yes 学術論文・学術書9件(前年度比75%) ②研究成果を学会等で発表しているか→ Yes 学会発表 20件(前年度比95.2%) ③一般向けの書物等に執筆しているか→ Yes 一般科学報文(印刷物、メールマガジン)34件(前年度比91.9%) ●目標値・指標:達成	研究職員ひとりあたり、学術論文・学術書1件(計8件)、学会発表1件(計8件)、一般向けの執筆2件(計16件)	【課題】研究成果の公表につながる調査研究の実施、論文執筆等の業務時間の確保 【改善案】国内でも類を見ない海洋生物を専門とする研究員を有する館として、県民への研究成果の還元は重要であるので、他業務とバランスを工夫し、調査研究業務を実施するための時間を確保したり、他機関と共同研究を推進することで、より効率的な研究の実施を目指す。
C. 新聞、雑誌等マスコミ掲載(館独自項目)	・ 研究成果の新聞等への公表状況	目標値未設定	①件数 4件 千葉日報「チーバくんと学ぶ深い海に暮らす生きものたち」1件 千葉日報「海藻いろいろー千葉県豊かな海からー」3件	目標値未設定	【課題】新聞への掲載を継続するための研究の確保 【改善案】新聞掲載を継続するために、公表できる成果を上げることのできる調査・研究に取り組む。
有識者所見	研究成果の発表については、ホームページでも極力公開するよう努めていただきたい。(加藤) 改善案に基づき進めてください。研究成果のタイムリーな公開は広報、集客にも繋がります。館の周知や注目度も向上します。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目		7. 展示			
① 常設展示					
A. 展示の更新と保守・点数	・ 展示替の実施状況 ・ 保守・管理の実施状況	展示更新回数50回 継続	<p>① 展示替えについての計画があるか。→ Yes</p> <p>② 計画通りに展示替えが行われているか。→ Yes</p> <p>③ 年間更新回数：44回(H24年度45回;前年度比115%):内訳はユニット展示の交換×4、季節展示の交換×4、トピック展示の更新×5、自然観察エリアホワイトボード×30、こんなのみたよ×1、こんな研究をやってます×0</p> <p>● 目標値・指標:達成できなかった(達成率88%)</p> <p>① 保守や管理の計画があるか。→ Yes</p> <p>② 計画通り行われているか。→ Yes</p> <p>③ 保守・管理のための予算要求を行っているか。→ Yes</p> <p>④ 展示中の事故はなかったか(職員・来館者) → Yes</p> <p>・ 剥製・ジオラマ等の展示品、AV機器については、毎年1回、来館者が減少する冬季に休館日を利用してもしくは臨時休館日を設けて、専門の業者による保守点検を行っている。</p>		<p>【課題】計画的な展示の交換・更新及び来館者等からの情報の収集</p> <p>【改善案】常設展示のうち、ユニット展示、季節展示、自然観察エリアの各コーナーの定期的な交換を、年間計画に基づいて行うとともに、トピック展示やこんなのみたよのコーナーなどについては来館者からの情報等が重要になるので、頻繁な情報収集とともに、来館者へのこれらのコーナーの周知を図る。</p> <p>また、新規のユニット作製の計画を立て、推進する。それに際して、費用を要するものは、予算の確保に努める。</p> <p>【課題】来館者の安全に留意した展示保守・管理及び補修</p> <p>【改善案】軽微な損傷等については、職員が日常的に保守を行っている。特に、来館者が触れる展示品は、安全面に留意し、消耗や破損を考慮して、随時交換等を行う。</p> <p>【課題】展示機器類の老朽化</p> <p>【改善案】展示機器類(モニタ、プレーヤー、タッチパネル等)の多くがすでに耐久年数を越えており、いつ壊れてもおかしくない状況であるので、補修または交換のための予算請求を継続して行う。</p>
B. 満足度	・ 利用者満足度の把握状況 ・ 結果の反映状況	アンケート項目「③入場してよかったか」の5と4の評価で70%以上	<p>① 面白い展示であったか(アンケートによる5段階評価)。(良)← 5:55%, 4:26%, 3:12%, 2:2%, 1:5% →(否)</p> <p>② わかりやすい展示だったか(アンケートによる5段階評価)。(良)← 5:48%, 4:26%, 3:20%, 2:2%, 1:3% →(否)</p> <p>③ 入場してよかったか。(良)← 5:54%, 4:35%, 3:7%, 2:1%, 1:3% →(否)</p> <p>④ 職員の資質向上に努めているか。→ Yes</p> <p>⑤ 入場料金は適切であったか。 高い:9%, 適切:41%, 安い:50%</p> <p>● 目標値・指標:「③入場してよかったか」の5と4の評価で85% →達成(達成率121%)</p>		<p>【課題】来館者が満足できる常設展示</p> <p>【改善案】展示内容については、アンケート結果をもとに改善すべき点を全職員で検討し、改善に努める。</p>
有識者所見	展示機器類の不具合は館のマイナスイメージになってしまいます。メンテナンスを行うとともに、改善案に基づき、改修や市新規購入を展示を維持するためにも、引き続き予算要求を行ってください。館の広報、周知の機会にもなります。アンケート調査は、継続して行ってください。属性・来館・回数については、統計が必要です。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案	
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見		H26目標値
②企画展示(変更)						
	A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況 年齢・地域等入場者の動向把握 来館者満足度の状況 		実施せず		【課題】 【改善案】
	有識者所見					
③企画展示(変更なし)						
	A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況 年齢・地域等入場者の動向把握 来館者満足度の状況 	マリンサイエンスギャラリー年度内期間中入場者数8,800人(前年度比105%)アンケート 全体的な感想(満足度)の5と4評価で80%以上	①企画数: 3件 「マリンサイエンスギャラリー・海藻いろいろー千葉県豊かな海からー」、「収集資料展・ウニと愉快なかまたち」、「お絵かき展ーチーバくんと学ぶ深い海に暮らす生きものたちより」を開催した。 ②入場者動向の把握を行っているか。→Yes ③マリンサイエンスギャラリー25年度内入場者数6,121名 ●目標値・指標:未達成(73.0%)(H24年度内入場者数:8,381名) 23年3月に発生した東日本大震災以降、入場者数が減少していたが、24年度は回復傾向が見られ、目標を大幅に上回った。しかし、25年度はその7割に終わった。展示初期にあった大雪と土砂崩れ等に伴う周辺国道の通行止めの影響や、24年度の展示のテーマが一般に興味を引く深海生物が中心であるのに対して今年度はテーマ的に関心が低かったことも要因と考えられる。 満足度(内容をアンケートによる5段階評価) マリンサイエンスギャラリー「海藻いろいろー千葉県豊かな海からー」 (良)← 4: 66.7%、3: 31.6%、2: 1.7%、1: 0% →(否) →4と3の割合 98.3% ●目標値・指標:達成:評価4と3で98.3%→目標達成 前年度はアンケート項目を5段階評価としたが、4段階評価に戻したため「評価4と3で80%以上」に変更した。	マリンサイエンスギャラリー年度内期間中入場者数6,500人(前年度比105%)アンケート 全体的な感想(満足度)の4と3評価で80%以上	【課題】 予算削減による企画展示の予算不足 【改善案】 解説書、ポスター、チラシ等は外部資金(日本財団の助成金)で印刷する。業者委託により製作しなければならない剥製等の以外の展示物、展示パネル等は、職員の知識・経験を集約して、可能な限り職員自らで作製する。 【課題】 来館者が満足する展示 【改善案】 アンケート結果を基に、来館者の要望に対応した展示を計画・実施する。
	有識者所見 目標値の分析はその通りであろう。研究成果効果としての企画展示は必要です。見せる方法の検討も必要でしょう。(戸枝)					
④館外での展示						
	A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況(要望件数等) 利用者が満足しているか 		実施せず		【課題】 【改善案】
	有識者所見					
⑤他館との合同企画による展示						
	A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況(ネットワーク) 利用者が満足しているか 		実施せず		【課題】 【改善案】
	有識者所見					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
8.教育普及事業					
①参加体験事業					
A.回数と参加者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> 種類と回数、参加者数 参加者は満足しているか 	海の博物館主催の体験活動80回定員の8割	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数(海の博物館主催):92回,前年度比:96% 観察会10回,フィールドトリップ9回,バックヤードツアー4回,タッチプール20回,海の体験コーナー40回,みんなで工作海のいきもの9回 目標値・指標:達成(103%) 参加者総数909人,定員達成率100%(定員911人) ●目標値・指標:達成 観察会 参加者数:125人,定員達成率:70% フィールドトリップ 参加者数:179人,定員達成率:120% バックヤードツアー 参加者数:30人,定員達成率:50% タッチプール 参加者数:293人,定員達成率:155% 海の体験コーナー 参加者数:180人,定員達成率:77% みんなで工作 参加者数:140人,定員達成率:104% 目標値・指標:達成(回数92回,96%) 		【課題】参加者が安心できる海辺での体験活動の実施 【改善案】平成23年3月11日の津波と原子力発電所の事故以降、海辺での体験活動に不安を感じる参加者が少なからずいるので、体験活動開始時に、安全管理についての詳細な説明をし、放射能数値が安全な値を示していることを伝える。 また、博物館の使命である資料収集と調査・研究の成果を還元する場が体験活動であり、研究員各自が専門性を活かした質の高い充実した体験活動を展開することが参加者を満足させると考えている。さらに今までのアンケートの結果等を考慮し、参加者に満足してもらうために次のように対応する。 ・最大でも20人程度の参加者が、活動中及び行事終了後に参加者が気軽に質問できるよう2名の研究員で対応する。後日、参加者から電話や電子メール等で質問が寄せられた場合にも、各担当者が随時対応をする。 ・観察会などの行事に合わせて参加者が内容や海洋生物がわかるようなテキストを作成する。また、「自然観察エリアガイドマップ」及び「海の生きもの観察ノート」も活用する。さらに「磯観察キット」を活用し充実した磯観察を実施する。 ・タッチプールでは、触れる生物の名前や生態がわかるよう必要に応じ「自然観察エリアガイドマップ」を配布する。 ・海の体験コーナー及びみんなで工作海の生きものでは、活動内容や工程がわかるような観察シートを作成し配布する。 ・磯観察などに役立つ「海の生きもの観察ノート」を継続して発行する
有識者所見	体験事業は、参加者の安全や満足度向上のため定員を管理できる人数とし、指導者を複数にするなど配慮されている。テキストも活用されている。 館と事業の周知、リピーターの確保、入館者増のため継続する必要があります。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
②講演会・講座					
A. 回数と参加者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> 種類と回数、参加者数 参加者は満足しているか 	3回 定員充足率60% 4段階評価で1.2評価が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 実施回数:3回, 前年度比:75% 企画展示(マリンサイエンスギャラリー)に関連する行事も行うことができ、回数は目標値に達した。 ●目標値・指標:達成 参加者数:45人, 定員に対する達成率:65% 企画展示に関する講座の充足率は高かった。 ●目標値・指標:達成(回数100%、達成率108%) 満足度(アンケート調査による4段階評価) この行事に参加していかがでしたか (良)←1:57%, 2:43%, 3:0%, 4:0%, →(否) (1, 2の評価が合計100%) ●目標値・指標:達成(125%:目標値80%に対し) 		【課題】参加者を増やす 【改善案】参加者を増やすために内容を検討したりHPなどで積極的に広報する。
有識者所見	改善策に基づき進めてください。昨今の話題性のあるテーマで実施することも検討してください。(戸枝)				
9.情報の発信					
①県民への直接的情報提供					
A. 電話・来館面接等の質問	<ul style="list-style-type: none"> 件数と対応状況 	継続	→ Yes 対応件数: 815件(電話750件、来館者が直接35件、メール等30件) (H24年度は803件)		【課題】問い合わせ者が満足できる対応 【改善案】県民から信頼される職員を目指して電話での対応には十分留意し、専門的な質問には、専門分野に最も近い研究員が担当して回答するなど、可能な限り十分なかつ迅速な回答を行う
有識者所見	継続してください。質問等の内容分析、集計を行ってください。(戸枝)				
②メディア					
A. 館事業(含調査研究)の情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 提供件数 掲載件数の状況 	発信件数100件	①メディアへ館の情報を定期的に発信しているか。→ Yes 対応件数: 293件(目標値100件、達成率293%) ②メディアからの協力要請に対応しているか。→ Yes 対応件数: 57件(上記含まず) (新聞テレビラジオ 29件、その他情報誌等28件) →当館では、報道機関や雑誌、近隣市町村の広報誌に定期的に館イベント情報を提供している。また、各種メディアからの取材や館情報提供要請、ならびTV等の番組制作者からの協力要請には、原則的に全て対応した。 ●目標値・指標:達成(達成率293%)		【課題】メディアの要望する情報の発信 【改善案】これまでは主に館行事の案内などの情報発信に限られているが、当館が関連する海洋生物に関する話題など、メディアの要望する情報を積極的に発信するシステムを築く。
有識者所見	改善案をすすめ、館の周知度を高めてください(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
③ホームページ					
A. ホームページによる情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 更新件数 資料登録件数の状況 アクセス数の状況 	更新件数30回 アクセス件数 62,000回	①定期的な更新がなされているか。→Yes 更新件数: 30回 (目標値30回:100%達成) ②アクセス件数はどのくらいあるのか。 件数: 52,931件 前年度比:128% (H24:41,642件)。 今年度からツイッターを導入したため(ツイート回数175回)、ホームページの更新が目標値に達しなかった。 ●目標値・指標:達成率(86%)		【課題】新情報システムに切り替わり、「海の博物館」で検索しても上位でヒットしなくなった。 【改善案】現在の県立各館のアクセス数報告は、HPのトップページへのアクセスがカウントされており、HP内の各ページ(番組)へ直接アクセスしたものは反映されていないようであるから、これらが反映される仕組み作りが必要。
有識者所見	情報更新頻度を高め、アクセス数を増加させていただきたい。(加藤) 改善策を進め、館の周知度を高めてください。(戸枝)				
④刊行物					
A. 印刷物による広報	<ul style="list-style-type: none"> 種類と部数 配付等の状況 	4種類	①印刷物等の刊行により、館事業の情報提供及び広報活動を計画的に適切な時期をもって行っているか。→Yes ②・種類:5種類:マリンサイエンスギャラリー(ポスター、リーフレット、展示解説書)、収蔵資料展(リーフレット)、開催行事の案内(達成率125%) ③時期は適切か。→Yes(事業実施の1カ月前) →マリンサイエンスギャラリー(解説書、ポスター、リーフレット)、収蔵資料展の広報資料(リーフレット)及び年間行事計画を発行した。 ●目標値・指標:達成(125%)		【課題】より効果的な印刷物の配布 【改善案】一般県民により興味を持ってもらえるような印刷物の作製と広報の効果のある配布場所の選定。
有識者所見	改善案に基づき進めてください。広報資料の効果も分析してください。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
10. 県民参画					
① 県民との協働					
A. ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活用システムの構築 登録者数と活動状況 育成のための研修等の実施状況 	目標値未設定	①ボランティアを効果的に配置するシステムがあるか。→ Yes ②人数：30人、前年度比：84%（H24年度は36人） →平成21年度からボランティア制度を設け、25年度は18名に「うみはくボランティア」として活動してもらった。主な活動は、諸活動の準備作業、資料収集活動及び行事実施時の補助等である。また、従来通り資料等を頻繁に提供いただいている地元漁業者の方々等12名をボランティアとして位置づけた。 ③活動日数：164日（H24年度は297日） ボランティア登録した「うみはくボランティア」18名の活動延べ日数が150日、その他のボランティアの活動延べ日数が14日である。		【課題】「うみはくボランティア」の活動の拡充 【改善案】「うみはくボランティア」の活動については、各ボランティアが興味を持った活動をしてもらえるように、希望調査を行い、適宜業務を用意する。また、より連帯感を持ってもらうようにするため、全員を対象とした共同作業や研修を計画する。資料提供ボランティアについては、地元漁業者との人間関係の構築、その維持に努める。
B. 県民からの情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 情報入手体制の状況 対応状況 	継続 (27件)	①県民からの情報を取り入れているか。→ Yes ②情報件数：15件、前年度比：58%（H24は27件） 内訳：資料受入14件・26点、展示情報受入1件 近隣住民、来館者等から資料や情報の提供を受けることがあり、それらについては、状態や価値を判断した上で、収蔵資料、調査研究、展示等に活用している。 ●目標値・指標：未達成（達成率58%）		【課題】県民からの情報の提供を増やすとともに適切に対処する 【改善案】海の博物館が県民からの情報を積極的に受け入れていることをHPなどで周知し、情報の提供を啓発する。特に地元住民には積極的に周知活動を行う。また、得られた情報を積極的に展示に反映するなど、適切に対処する。
C. 友の会	<ul style="list-style-type: none"> 会員数(増減) 活動状況(館との連携・単独事業) 	該当なし			【課題】 【改善案】
有識者所見	地元漁業者をボランティアとしたことは、館の性格上高く評価できる。県内唯一の海をテーマとした博物館であるので、県内他地域の漁業者との連携も模索していただきたい。(加藤) 地元漁業者を資料提供ボランティアにされたのは、地域と博物館との連携を強化するものと覆います。資料に関する情報は貴重です。資料提供者を展示や印刷物に載せることにより、さらに情報や資料収集の期待が高まります。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
②外部との連携・調査					
A. 実施の状況	<ul style="list-style-type: none"> 受入態勢等の構築状況 実施状況 	連携・調査件数2件	①連携のシステムが構築されているか。→ Yes ②連携件数は何件か。→ 件数: 5件, 前年度比: 250%(H24: 2件) →NPOとの連携については特に制度は設けておらず、必要が生じた際、その都度、職員で話し合い対処している。 ●目標値・指標: 未達成(40%) 平成25年度は、NPO法人3団体(千葉シニア大学、南外房環境クラブならびに夷隅郡自然を守る会)と行事や地域の自然に関する研究で連携した。		【課題】NPOとの連携を増やす 【改善案】引き続きNPOとの連携ができるよう情報を収集し連携を実現させたい。
有識者所見		連携については、所見・改善案のとおり進めてください。(戸枝)			
11.人材育成					
①博物館実習					
A. 回数・人数	<ul style="list-style-type: none"> 受入態勢等の構築状況 回数、校数と参加者数 	目標値未設定	①博物館実習を行っているか。→ Yes ②件数 0件 ③人数 0名 →25年度は実施しなかった。		【課題】博物館実習の実施時期 【改善案】博物館実習の多くが8月に行われることなどから、海の博物館では行事が多く開催される繁忙期の博物館実習は厳しい。実施時期については検討が必要。
有識者所見		1-①と関連して、繁忙期以外の受け入れの可否についても検討してください。(戸枝)			
②教員等研修					
A. 回数・人数	<ul style="list-style-type: none"> 受入態勢等の構築状況 回数、校数と参加者数 	5件100人	①教員研修を行っているか。→ Yes ②件数: 5件, 前年度比 100%(H24は5件) ③人数: 78人, 前年度比 103%(H24は76人) →教員研修に関しては、県総合教育センターと共催で1回、他各種教員組織からの依頼に応じて研修会を開催している。県高校理科部会や夷隅郡市理科部会の研修を行ったが、教員研修は研修後にその成果が学校教育に還元されるという点からも重要である。特に、海のある地元の教員の研修の件数を増やしたい。 ●標値・指標: 達成(件数100%、人数103%)		【課題】件数及び人数を増やす 【改善案】年度初めに理科教員を中心にした研究会等に海の博物館での研修会の実施を呼びかける。
有識者所見		結果・所見、改善案に基づき進めてください。館の事業の周知、入館増が見込まれます。(戸枝)			
③職場体験学習・インターンシップ					
A. 回数・人数	<ul style="list-style-type: none"> 受入態勢等の構築状況 回数、校数と参加者数 	3件10人	①職場体験を受け入れているか。→ Yes ②件数: 1件, 前年度比 34%(H24は3件) ③人数: 6人, 前年度比67%(H24は9人) 前年度に比べ地元小中学校からの職場体験の件数、参加する児童・生徒の数ともに減少した。 ●目標値・指標: 未達成(件数34%、人数67%)		【課題】職場体験の受け入れ期間と人数の調整 【改善案】職場体験はなるべく多くの児童生徒を受け入れたいが、繁忙期と重なると受け入れが難しくなるので、より効率的な受け入れを実現するために年度当初に連絡調整するなど、学校との連絡を密にする。
有識者所見		1-①と関連して、改善案に基づき進めてください。(戸枝)			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
12. 県民等からの依頼による学習支援					
① 展示等の活用					
A. 解説の回数、利用者数と満足度	<ul style="list-style-type: none"> 回数と利用者数 利用者ニーズの把握状況 	200回 4,000人	<ul style="list-style-type: none"> ① 解説の要望に応じるシステムになっているか。→ Yes ② 回数318回, 前年度比 126% (H24は254回) ③ 人数: 6019人。前年度比 113% (H24は5364人) →当館では、体験交流員による定時解説(284件4247名)と、研究員が団体等からの依頼に応じて行う解説(件数34件1772人)がある。1名の職員で一日に2団体の対応をするなど、懸命な努力によって目標値を上回った。 ●目標値・指標: 達成(件数159%) 達成(人数151%)		【課題】県民の要望に応じた解説の充実。 【改善案】展示解説への対応は、研究員の日程調整をして対応する。また、より多数の要望を受け入れるために、ボランティアによる解説の充実を図るための研修を実施する。
有識者所見	解説のニーズは、館活動の充実に比例するので、ニーズ増加に対応できる仕組みの構築を願いたい。(加藤) 多くの解説を行い、効果を上げていると思います。満足度向上と、リピーター確保に効果があると思われます。(戸枝)				
② 館内での講座・講演会					
A. 回数、利用者数と満足度	<ul style="list-style-type: none"> 回数と利用者数 利用者ニーズの把握状況 	10回	<ul style="list-style-type: none"> ① 講演会等の要望に応じるシステムがあるか。→ Yes ② 回数: 9回, 前年度比100% (H24は9回) ③ 人数: 613人, 前年度比 243% (H24は253人) ●目標値・指標: 未達成(件数90%)		【課題】講演会等の受け入れ体制の検討 【改善案】より多くの要望に応じるため、効率的な受け入れ体制を検討する。
有識者所見	職員、事業回数との勘案もあるが、外部依頼はできるだけ要望に応じてください。(戸枝)				
③ 学校連携					
A. 学校団体の受入	<ul style="list-style-type: none"> 受入校数と回数、人数 利用者ニーズの把握状況 	学校35回	<ul style="list-style-type: none"> ① 要望に応じるシステムになっているか。→ Yes ② 回数: 60回, 前年度比 125% (H24は48回) ③ 人数: 2,813人, 前年度比 125%(H24は2,260人) →申込みがあった場合はなるべく受け入れるよう心掛け、職員の出勤・週休等を調整しながら対応したため、目標値を達成できた。 ●目標値・指標: 達成(160%)		【課題】学校等の団体の受け入れ体制の検討 【改善案】より多くの学校を受け入れるため、効率的な受け入れ体制を検討する。また、地元の学校を中心に周知する。
B. 出前授業	<ul style="list-style-type: none"> 実施校数と回数、人数 利用者ニーズの把握状況 	7回	<ul style="list-style-type: none"> ① 出前授業の受け入れ態勢があるか。→ Yes ② 回数: 9回, 前年度比129% (H24は7回) ③ 人数: 958名, 前年度比 194% (H24は495人) ●目標値・指標: 達成(129%)		【課題】出前授業の回数を維持する 【改善案】現状の回数の出前授業を実施するため、効率的な受け入れ体制を検討する。
有識者所見	1-②に同じ。(戸枝)				
④ 外部講師依頼					
A. 依頼の状況、回数と人数	<ul style="list-style-type: none"> 支援体制の状況 回数と参加者数 利用者ニーズの把握状況 	目標値未設定	外部への講師派遣等の要望があるか、また、支援体制が構築されているか →Yes ①回数: 9回		【課題】支援体制の構築 【改善案】学校や社会教育関係でどのような支援(講師)ができるかを説明できる資料を作成し、学校や社会教育関係機関に説明する。
有識者所見	1-②に同じ。改善案に基づき進めてください。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
13.地域づくりへの支援					
①地域との連携事業					
A. 機関・地域住民等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況(種類と件数) ・ニーズの把握の状況 	目標値未設定	<ul style="list-style-type: none"> ○連携事業を行っているか→Yes ①住民との協働による情報の収集 漁業関係者から14件26点の海洋関係生物等が提供された。それらを展示室で紹介するとともにHP等で随時公開している。 ②地元市町村・関係機関との連携 地元NPO法人南外房環境クラブと行事や地域の自然に関する研究で連携した。 千葉県総合教育センターと連携し、「海の環境学習講座」を実施した。 		<p>【課題】地域企業との協働事業実施に伴う経費の按分化</p> <p>【改善案】地域連携を一層推進する上で、民間事業者との協働事業実施を容易にするために、条例改正等により経費の按分化が図れるようにする等、基盤整備が必要。</p>
有識者所見		10-①、②と同じ。(戸枝)			
②観光資源としての活用					
A. 県外団体来館数	<ul style="list-style-type: none"> ・団体数 ・地域等の傾向 	継続	<ul style="list-style-type: none"> ①団体・来館者数:51団体、3,458人(H24は3,356人) ②利用地域:東京74%,埼玉14%,神奈川2%,茨城6%,その他4% ●目標値・指標:達成(団体:51% 人数:115%) 	100団体3,000人	<p>【課題】県外の団体の誘致</p> <p>【改善案】隣接する勝浦海中公園センターが毎年東京の学校にダイレクトメールを送付しており、これに海の博物館の「ご利用のしおり」を同封してもらい、併せてホームページの活用を促進し、最新の情報を提供し易くする。</p>
B. 外国人入場者数	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 ・地域等の傾向 	目標値未設定(方法を検討)	<ul style="list-style-type: none"> ①来館者数:163人(H24は152人) ②配付資料の種類:2種類:「利用のしおり(英語版)」(無料)、展示解説書の巻末に2ページの英文要約付(有料)。 ※外国人から要望があった場合は、研究員が対応している。 		<p>【課題】外国人の人数のカウント</p> <p>【改善案】現在の入館者確認システムでは、外国人入館者の数は正確に把握できない。外国人と推測される入館者を受付で計数しているのが現状である。したがって、実際にはアジア系を中心に多くの入館者がいると思われるが、適当な改善策は見当たらない。</p>
有識者所見		入館者増加のためにも、近隣市の観光協会等と連携し、館行事のPRに努めていただきたい。(加藤) 改善案に基づき進めてください。施設同士が連携、協力していくことは良いと思います。双方の印刷物も掲示し、広報してください。 県では積極的に外国人観光客を誘致しようと計画しています。入館者の分析とともに、中央博物館や他部局との連携を検討してください。(戸枝)			

自己評価票(H25)

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
1.使命と計画					
①中長期計画					
A. 目標と計画・重点事業の構築、事業への活用	・目標の設定、具体的計画の策定状況 ・事業への活用状況	目標・計画を策定した	館内会議等で再構築基本計画を構築し、職員に周知した上で実施した	再構築基本計画の実践と改訂	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見					
②評価の実施					
A. 評価の実施と結果の反映	・自己評価及び外部評価の実施状況 ・P.D.C.A.サイクルへの反映状況	自己評価・外部評価については、毎年実施している	主な展示会や地域連携事業、学校連携事業の報告会を行い、改善点、課題等について、職員全員で情報等を共有した	指摘のあった点については、さらに改善を進めたい	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見					
2.組織と運営等					
①組織・人員					
A. 職員の研修	・研修への参加体制の整備状況 ・参加状況(種類・件数・人数)	専門職員としての研修・県職員としての研修等に積極的に参加する。	・財務会計事務基礎研修 1 ・新採職員フォローアップ研修 1 ・コンプライアンス研修 1 ・メンタルヘルス研修 1 ・トップセミナー 1 ・副課長・主幹級研修 1 ・パワーアップ研修 1 ・危機管理担当者研修 1 ・博物館長研修 1 ・財務会計年度末事務研修 1 ・文化財管理指導者研修 1 ・千葉県博物館協会研修会 1 ・関東地区博物館協会研修会 1	昨年度に加え、専門職員としての研修・県職員としての研修等に積極的に参加する。	【課題】専門研修の受講が少ない 【改善案】科学博物館が実施する学芸員専門研修アドバンス・コースの受講や文化財研究所の研修などの受講を勧める
有識者所見		改善策の通りに進めてほしい。専門性を高めていかないと、博物館の魅力は失われてしまうと思う。(黒田)			
②県民ニーズに則した運営					
A. 利用者数	・当該年度の利用者数 ・前年度比較による傾向	入館者数180,000人を目指します。	25年度は161,387人。前年度と較べると495人減。特別企画展示により入館者は増えたが、2月の大雪の影響で総来館者は減少した	入館者数180,000人を目指します。	【課題】団体利用者の大半が雨天時に集中する 【改善案】晴天時でも来てもらえるような体験等の充実を図る
B. 満足度・ニーズ等の調査	・実施方法と結果 ・結果の事業への反映状況	継続	利用者からの声を通年で受け付けている。また、企画展等で行うアンケート調査から、利用者ニーズの把握に努めた	継続	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見		晴天時にも利用したくなる企画をぜひ充実させてほしい。また、アンケートで把握したニーズをそれらの企画にしっかりと反映させてほしい。(黒田) 努力のあとがある。良好である。(石川)			
3.施設・設備					
①アメニティーの向上					
A. バリアフリー	・バリアフリー対策の実施状況	継続	バリアフリーに対応している。1階と2階の展示室の移動はエレベーターで対応している。また、サイエンスドームへは、車いすも2階から入ることができる。	継続	【課題】特になし 【改善案】
B. アクセス	・交通機関(含誘致)と駐車場の状況 ・アクセス案内の状況	継続	普通車80台、大型バス8台分のスペースを確保、市川市コミュニティバス停留所が館内にある。また、アクセス案内はHPに写真入りでアップしている。	継続	【課題】特になし 【改善案】
C. ミュージアムショップ	・利用者満足度とニーズの把握状況 ・結果の反映状況	継続	入館者から寄せられた商品のニーズについては、運営元の県教育振興財団に伝え、販売実現を依頼した。	継続	【課題】週1回程度しか開いていない 【改善案】団体等から事前に話があれば職員が対応する
有識者所見		ミュージアムショップの体制を急激に変えることは現状では難しいかもしれないが、団体への事前の聞き取りなどを積極的にを行い、開業時間を柔軟に増やす、商品展開を委託先に提案するなどを行ってほしい。(黒田) ミュージアムショップは課題である。(石川)			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目	評価の視点				
4.財源					
①予算の確保					
A. 入場料収入・その他の事業収入	・当初計画に対する収入の達成状況 ・その他の収入の状況	12,187千円 1,794千円	約230万円の収入減となった。今後収入確保のため、有料入場者数増の取り組みが必要である 概ね目標値どおりの結果であった	11,186千円 2,217千円	【課題】入館者は増えているが無料入館者なため収入に結び付かない 【改善案】体験者に付き添いの大人から入館料を徴収する
有識者所見		入館料を支払ってもよいと思わせる魅力的な事業を遂行してほしい。(黒田) 家族での来館について考えてみたい。(石川)			
②館独自の財源獲得					
A. 外部助成金等の獲得	・獲得計画に対する達成状況	2件以上	1件 480千円 ・全国科学系博物館活動等助成 480千円(特別展資料制作委託他)	2件以上	【課題】採択件数の増加 【改善案】申請数の増加
有識者所見		改善策の通りに進めてほしい。(黒田) 外部助成金はどん欲に研修すべき。(石川)			
5.収集・保存及び活用					
①資料の管理と収集					
A. 収蔵点数と収集点数	・収蔵資料の件数と点数 ・新収集資料の件数と点数	前年度並みの点数を目指します。	①寄託 5件297点(H25:0点) ②寄付 1,437点 (H25:23点) ③購入 90点 (H25:1点) (開館以来の累計) 2,517点 (H25:24点) (開館以来の累計)	前年度並みの点数を目指します。	【課題】購入等予算の確保 【改善案】購入費のため、外部助成金の獲得等を進める。
B. 登録	・収蔵資料の管理(台帳等整備)状況	100%	100% 受入と同時に登録した。	100%	【課題】特になし 【改善案】
C. 維持管理と修復・保存処理	・定期的な維持管理の実施状況 ・資料の修復作業・保存処理の状況	収蔵庫の週1回の安全点検 毎日の状況報告・週1回の点検報告	定期的な維持管理を行った。また、収蔵庫に関しては温・湿度記録を定期的にチェックし管理を徹底した。	収蔵庫の週1回の安全点検 毎日の状況確認・週1回の点検報告	【課題】収蔵品の状況にあわせた修理計画の作成 【改善案】 修理の緊急度に順位付けを行い、予算の範囲内で修理を行う。 実験装置の稼働や動く実物の保存を通し展示資料の活用に努める。
有識者所見		改善案の通りに進めてほしい。(黒田)			
②資料の活用					
A. 要望に応じた貸出等	・研究や展示等、資料の貸出状況	2件以上	実物資料貸与件数1件(49点)	2件以上	【課題】特になし 【改善案】本館の収蔵資料が他館の展示に利用されるケースが少ないのでデータベースの構築を継続する
有識者所見		データベースの構築、公開の実現に邁進してほしい。(黒田)			
③図書室の公開					
A. 図書資料の閲覧	・閲覧システムの構築状況 ・利用状況と利用者満足度	継続	子ども向け図書、一般・専門書籍を配架し開館時間内は自由に閲覧可能。必要に応じて職員が対応。収蔵冊数15,436冊	継続	【課題】図書購入費がない 【改善案】各館協力して予算要求を進める
有識者所見		外部資金の獲得なども検討しつつ、購入費確保を進めてほしい。また、利用者のニーズ把握も行き、それを反映した公開体制を取ってほしい。(黒田)			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目					
細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
6.調査・研究					
①調査事業					
A. 調査事業の件数	・ 使命に基づく調査研究の実施状況	7件	(研究報告4件) これらは、研究報告成果としてHPで公開している。その他、各自が使命に基づいた研究テーマを設定し調査・研究を行った。	7件	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	HPでこの研究報告成果を見つけることができなかった。どこで公開しているのか？今後の企画展や事業を生み出すような長期的な調査・研究が必要とされているのではないか。(黒田) HPの改善は評価できる。(石川)				
②外部との調査・研究					
A. 外部との調査研究の件数	・ 共同研究等の実施状況	2件以上	0件	2件以上	【課題】外部と共同研究が可能なベテラン学芸員の確保 【改善案】若手・中堅職員について、短期間で異動する職員人事を是正してもらうよう主務課に依頼。
有識者所見	研究は博物館の役割の大きな部分である。また、博物館で行う研究の長所は、さまざまな機関や個人との連携がしやすい点にあると考える。この長所をぜひ生かし、研究活動が可能となる職員体制の構築に努めてほしい。(黒田) 改善案に同意する。(石川)				
③研究成果の発表					
A. 展示等への反映	・ 展示への反映状況 ・ 普及事業への反映状況	7件	4件 特別展 ・ 成田空港の紹介 ・ 航空機の飛行原理について ・ 千葉県の航空史 ・ これからの航空技術 収蔵資料展 県内産業遺産の活用に関する研究 演示実験・工作教室での教材開発	7件 (可能であれば印刷・発刊)	【課題】反映数の増加 【改善案】展示内容に沿った調査・研究内容を展示に反映させる。
有識者所見	論文、口頭発表なども含め、さまざまな角度からの成果の発信を行ってほしい。(黒田) 来館者のレベルを意識した努力は評価したい。(石川)				
7.展示					
①常設展示					
A. 展示の更新と保守・点数	・ 展示替の実施状況 ・ 保守・管理の実施状況		・ 外部予算(全国博物館助成)により、特別展で作成した実験装置を常設展示追加。 ・ 企業協力により常設展示に新規展示の追加(金属光沢調フィルム) ・ 保守点検業務 常設展示保守点検業務 展示映像機器保守点検業務 電力シアター保守点検 鉄鋼シアター保守点検 川鉄千葉1号高炉模型保守点検 液体窒素製造装置保守点検 電子顕微鏡保守点検 炎色反応実験装置保守点検 の年間契約を結び、延べ約50回の点検を実施。 緊急点検「ウォーターロケット」の空気圧制御シリンダ交換、「うずまき」水位センサ調整、「ガリバーのストロー」空気弁交換		【課題】新規展示の追加 装置の老朽化による故障の増加 サイエンスドームの有効活用 【改善案】展示・運営協会やそれ以外の企業などへの調査活動・展示資料の提供依頼などを計画的に進めていく。 展示場の大型装置の修繕維持計画を作成し予算化に努める。 点検結果による合理的な保守計画 サイエンスドーム開催事業の活性化
B. 満足度	・ 利用者満足度の把握状況 ・ 結果の反映状況		来館者アンケートを実施している。アンケート内容を見ると、プラネタリウムを明るくしてほしいなどの要望系が多い。ただ、現実的には要望にすぐ答えられる内容のものは少ない。		【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	常設展示品の増加に企業の協力が得られたことは、他館では見られないケースで、これまでの円滑な企業との関係性や職員の努力が実った結果だと思う。今後も他の企業への協力要請により展示品のリニューアルにつなげていけると期待する。常設展示のリニューアル全体については、改善案の通りの努力を行ってほしい。来館者の要望は蓄積し、のちの展示改善に生かしてほしい。(黒田) 常設展示のうち、新しいものに変換する方策を考える時期に来ていると史料する。(石川)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目					
②企画展示(変更)					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施状況 ・ 年齢・地域等入場者の動向把握 ・ 来館者満足度の状況 	前年度並みの満足度	<p>ちば文化発信プロジェクトとして千葉県航空産業を取り上げ、展示・全天周大型映像・関連イベントの3提示方法で計画し実施した。それぞれ各年齢層に対応するようにした。</p> <p>【関連イベント】 ラジコン飛行機操縦見学会(120名) フライトシミュレータ教室(102名) こども模型飛行機教室(29名) 折り紙飛行機教室(360名) 麻薬探知犬デモ(70名) 飛行船パイロットークショ(130名) お仕事講演会 パイロット(123名) お仕事講演会 キャビンアテンダント(70名) こどもマーシャリング教室(70名) 紙トンボ教室(18名)</p> <p>40代29%、30代11%と全体の40%、シニア世代も25%と高い割合。小学生とその保護者及び祖父母の傾向が顕著。市川市、隣接する船橋市で59%。県内他市、東京都、他道県の合計は25%。 「たいへん良かった」57%、「まあまあ良かった」21%、「普通」3%、「あまり良くなかった」10%、「良くなかった」2名0%、「無回答」15%であった。「たいへん良かった」と「まあまあ良かった」を合わせると、78%となる。</p>	80%以上の満足度。	<p>【課題】各年齢層への対応</p> <p>【改善案】 来館者の年齢層の割合の6割強が30代以上であるが、これは小学生の保護者として来館するケースと考えられる。そのため、展示の主対象は小学年高学年としながらも多くの来館者の満足を得るためには、年齢層に合わせた解説内容も必要である。</p>
有識者所見	<p>満足度の目標値を充足させるよう、改善案にある努力を行ってほしい。「よくなかった」と回答した理由を把握し、今後の改善に生かしてほしい。(黒田)</p> <p>多いに評価できる。努力を認めたい。(石川)</p>				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目	評価の視点				
③企画展示(変更なし)					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況 ・年齢・地域等入場者の動向把握 ・来館者満足度の状況 	10回程度	<ul style="list-style-type: none"> ○収蔵資料展(1回) ・夏休み中に今までの展示会で人気の高かった、錯視・宇宙飛行士訓練・カメラについての展示を実施 会期中(16日間)の総入館者数は17,886人内、収蔵資料展入館者数は13,662人。男性44%、女性56%、小学生未満6%、小学生50%、中学生9%と全体の65%を占めている。大人からの回答は、30代が10%、40代が5%、50代9%、65歳以上3%、ほぼ全員が「とてもおもしろかった」と「おもしろかった」と回答 ○特設コーナー(2回) 宇宙飛行士訓練体験(ホワイトパズル、遠隔操縦体験)、宇宙メダカ 特別展開連(飛行船・日大航空研究会・飛ぶ科学) ○ワークショップ(2回) ・しげん&えねるぎー(風車、天然ガス映像、ヨウ素利用など) ・フライトシミュレーター ○ドームギャラリー(4回) ・パーソナルになったコンピュータ ・錯視関係資料 ・メガスターへの道 ・特別展開連(宇宙:イプシロン等) ○エントランスホール(1回) 千葉県の産業遺産とその活用を考える 	10回程度の目標とするが、昨年度より内容を充実したものとする	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】広報宣伝予算の確保 【改善案】インターネット等を利用した広報を促進するとともに、話題性の高い展示を行う
有識者所見	ワークショップや企画展示室外の特別展開連の展示もこの項目も実績として評価するのが妥当であるのかは疑問が残るが、改善案通りに行ってほしい。(黒田) 来館者の満足度は高いと思われる。課題は広報か。(石川)				
④館外での展示					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況(要望件数等) ・利用者が満足しているか 	0件	展示に関する要望は特に無いが、年間10件程度の出張講座の依頼があり、756人に希望する実験等を演示している。	0件	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	館の性質上、館外展示よりも出張講座のニーズのほうが高いと考えられる。今後も講座のニーズ把握や希望に沿った展開を取ってほしい。(黒田)				
⑤他館との合同企画による展示					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況(ネットワーク) ・利用者が満足しているか 	0件	予算の目途が立たないため実施しなかった。	0件	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】予算の獲得 【改善案】企画展示には至らないが、資料の借用などの連携はひろげていきたい。
有識者所見	共同研究の遂行や、データベース、現状行っている研究成果の公開型巻頭合同企画にもつながると思うので、それらにも力を入れてほしい。(黒田)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
8.教育普及事業					
①参加体験事業					
A. 回数と参加者数、満足度	・種類と回数、参加者数 ・参加者は満足しているか	200回・満足度80%	187回(前年度比+0回) 実験工作・体験教室(120)/サイエンスショー(7)/講座(32)/乗車会(18)/上映会(1)/イベント(10)/コンサート(3) 他に成人一般を対象にした講座「千葉県の産業遺産とその活用について」を計9回開催した。また、事業のアンケート結果を見ると、特に若年層から、実験が楽しかったなどの反響が多く寄せられ、満足度は高いと思われる。	200回・満足度80%	【課題】土・日の体験者への対応 【改善案】来館者、特に若年層のニーズを考え、土・日は科学館にすれば、何かしら体験することができるという体制作りをした。
有識者所見	満足度について、目標が達成できているのかどうかはこの所見では疑問が残るが、改善案通りに行き、今後も参加者の意見の把握に努めてほしい。(黒田) 高い評価で努力は認められる。(石川)				
②講演会・講座					
A. 回数と参加者数、満足度	・種類と回数、参加者数 ・参加者は満足しているか	4回	展示運営協力会講演会1回、特別展に関わる講演会3回	4回	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	参加者の満足度やニーズを把握し、今後に反映させてほしい。(黒田)				
9.情報の発信					
①県民への直接的情報提供					
A. 電話・来館面接等の質問	・件数と対応状況	前年度並みの対応	交通アクセスから専門的な質問まで、質問内容が多岐にわたるため、各課で対応している。	前年度のようにきちんとした対応をする	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見					
②メディア					
A. 館事業(含調査研究)の情報提供	・提供件数 ・掲載件数の状況	100件	目標数を達成することができた。 情報誌(雑誌)だけでなく、ネットでの情報提供にも力をいれた。	150件(新聞30件、地域誌40件、自治体広報19件、TVラジオ20件、WEB34件、他7件)	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	今年度も継続して行ってほしい。(黒田)				
③ホームページ					
A. ホームページによる情報発信	・更新件数 ・資料登録件数の状況 ・アクセス数の状況	・更新回数100回	更新173回 アクセス125,821件(前年度比+16,779件、約14%増) →2日に1回のこまめな更新での情報提供が増加につながったと考える。	・更新回数150回	【課題】更新期間の短縮 【改善案】さらに短期間で更新できるような方策を考えていく。
有識者所見	増加したことは大変良い傾向と思う。改善案通りに進めてほしい。(黒田) HPIは広報面で重要度高く、努力を評価できる。(石川)				
④刊行物					
A. 印刷物による広報	・種類と部数 ・配付等の状況	イベント情報、年に5回のチラシ、科学館ニュース等	チラシや刊行物は、予定通り配布できたが、時期が間際になってしまふものがあったので、早めに配布を完了させたい。24年度よりも大幅に配布先を増やした。	配布先を拡大する。	【課題】年度当初の配布 【改善案】年度当初の配布がスムーズにいくよう担当を詳細にわけ、課員一丸となって全員で取り組むようにした。
有識者所見	効果的な広報につながるよう、改善案通りに進めてほしい。また、有料入場者の確保に向け、子供向けだけでなく、大人が利用する公共施設への配布先の拡大を行ってほしい。(黒田) 学校関係では、早めの情報が望ましい、頑張ってください。(石川)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		自己評価			
細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
10. 県民参画					
① 県民との協働					
A. ボランティア	・ ボランティア活用システムの構築 ・ 登録者数と活動状況 ・ 育成のための研修等の実施状況	・ 登録者数は30名、活動件数は400件	・ 活用システム構築は登録年数の見直しを実施した ・ 登録者数は29名、活動件数は371件 ・ 育成研修については、大学との連携を図り、学生ボランティアを取り込んだ。また、事業の実施日に事前活動として実施した。	・ 登録者数は30名、活動件数は400件、ボランティア会議の実施	【課題】職員との交流が少ない 【改善案】直接事業の担当でない職員とも交流をもち、業務が円滑に進められるようにする
B. 県民からの情報提供	・ 情報入手体制の状況 ・ 対応状況		各種の講座やイベントに参加される県民とのかかわりを通して、情報収集に努めている		【課題】特になし 【改善案】
C. 友の会	・ 会員数(増減) ・ 活動状況(館との連携・単独事業)		休会中		【課題】特になし 【改善案】休会中のため、現状では特に課題はないが、友の会の存続については、検討を進めたい
有識者所見	大学との連携および学生ボランティアを確保できたのは良いことだと思う。職員との交流を密にすることで、複数の事業へのボランティアの協力を積極的に促せるようにしてほしい。友の会の存続がボランティアの確保にもつながると思うので、ぜひ検討してほしい。(黒田) 学生ボランティアを含め強化したい。(石川)				
② 外部との連携・調査					
A. 実施の状況	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 実施状況	前年度並みの実施	展示・運営協力会 展示会(13会員参加 4,704名) サイエンスショー(7会員参加 668名) 実験工作教室(13会員16講座参加 643名※抽選による受講数) 講演会(講師:石油学会 100名) 東邦大学連携事業(150名) NPO法人くらしとバイオプラザ21連携事業(19名) 木更津工業高等専門学校連携事業(40名) いちかわ環境フェア(12,000名) 子どもがつくるまち「ミニ★いちかわ2013(1,850名)	前年度並みの実施	【課題】連携の活性化 【改善案】展示・運営協力会とは、講演会等多方面の協力が得られ、多くの来館者から好評を得ている。更なる連携の活性化のため、ボランティア活動などを検討する。
有識者所見	改善案の通りに進めてほしい。(黒田) 今後のため、連携強化を図っていく必要あり。(石川)				
11. 人材育成					
① 博物館実習					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 回数、校数と参加者数	10名程度	受入要項作成済 学芸員資格取得希望者に実施 実績大学延べ39校 H25 8大学8名	10名程度	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見					
② 教員等研修					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 回数、校数と参加者数	前年度並みの実施	(22回1,186名(前年度比+17回,+579名) 申込みがあったものは全て対応した。	前年度並みの実施	【課題】 【改善案】
有識者所見	当館の専門性を生かすため、工業高校教員との接点が欲しい。(石川)				
③ 職場体験学習・インターンシップ					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 回数、校数と参加者数	前年度並みの実施	職場体験18校50人、職場訪問3校58人、インターンシップ3校4人	前年度並みの実施	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
12. 県民等からの依頼による学習支援					
① 展示等の活用					
A. 解説の回数、利用者数と満足度	・回数と利用者数 ・利用者ニーズの把握状況	前年度並みの実績	解説ツアーは、団体見学の要望に応じて、70回2613名(前年比+14回・656名)参加した。なお、団体申込受付に当たり必ず解説ツアーの希望の有無を確認している。解説タイムは、一般入館者対応で平日2回、土日祝日1回の計495回1,341名(前年比+10回・(-134名)参加した。また、ジューメンスタイムをイベントのない土日祝日に1回実施し、35回423名参加した(前年比-89回、-1,027名)。さらに、今年度はスマホを利用した音声ガイドを15か所設置した。	前年度並みの実績	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	新規に開始した、スマホを用いた音声ガイドがどのように機能しているのかなど、利用者の声の把握を確実に行ってほしい。				
② 館内での講座・講演会					
A. 回数、利用者数と満足度	・回数と利用者数 ・利用者ニーズの把握状況		特になし。館の事業運営上、支障がなければ対応することは可能である		【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	利用者の希望を待つだけではなく、講座、講演会は計画してぜひ行ってほしい。大人の集客につながるような内容が実行可能ではないか？(黒田)				
③ 学校連携					
A. 学校団体の受入	・受入校数と回数、人数 ・利用者ニーズの把握状況	前年度並みの実施	学校団体204校(前年度比+9校) 種別では、小・中学校155校と圧倒的に多い。次に、幼稚園・保育園が39校と続く。	前年度並みの実施	【課題】年齢層の偏り 【改善案】職場体験などを通して行き来のある中学校には、利用の促進を呼び掛けていく
B. 出前授業	・実施校数と回数、人数 ・利用者ニーズの把握状況	前年度並みの実施	18回703名<前年度比+7回+274名) 要望に対応した。種別では、学校関係6、社会教育施設12であった。	前年度並みの実施	【課題】担当者の負担増 【改善案】ある特定の職員に集中しないよう複数のチームを作って対応していく
有識者所見	改善案の通りに進めてほしい。(黒田) 存在意義を高めるためにも要努力。(石川)				
④ 外部講師依頼					
A. 依頼の状況、回数と人数	・支援体制の状況 ・回数と参加者数 ・利用者ニーズの把握状況	前年度並みの実施	15件790名(前年度比-6件-48名) 小中学校3、大学1、社会教育施設10、教育機関1	前年度並みの実施	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見					
13. 地域づくりへの支援					
① 地域との連携事業					
A. 機関・地域住民等との連携	・実施状況(種類と件数) ・ニーズの把握の状況	60件	地元自治体、地元商工会議所、県立高校、展示・運営協力会、県教育振興財団等との連携事業を実施した。隣接地にショッピングセンターがあるため、天候に恵まれれば参加者は多い	前年度並みの実施	【課題】特になし 【改善案】今後も地域との連携を深めたい
有識者所見	改善案通りに進めてほしい。(黒田) 隣接商業施設、市川市生涯学習センターの連携は長年の課題。(石川)				
② 観光資源としての活用					
A. 県外団体来館数	・団体数 ・地域等の傾向	前年度並みを目指す	地域別：東京63、神奈川2、茨城3、埼玉8、山梨1、中国1、韓国1、計79団体、特に東京東部の団体が多い。	前年度並みを目指す	【課題】地域の利用促進 【改善案】引き続き、隣接する東京都の江戸川区・葛飾区には、定期的に情報を発信していく
B. 外国人入場者数	・利用者数 ・地域等の傾向	前年度並みを目指す	225名(前年度比-211名)	前年度並みを目指す	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	外国人入場者への対応策を検討するべきではないか。(黒田) サイエンスドームの活用、展示との関連性など(予算は承知の上だが)考える余地あり。(石川)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
1.使命と計画					
①中長期計画					
A. 目標と計画・重点事業の構築、事業への活用	<ul style="list-style-type: none"> 目標の設定、具体的計画の策定状況 事業への活用状況 	中長期計画の策定と遂行	全職員の共通理解を図りながら、事業計画を構築し、事業を実施している。	継続実施	【課題】博物館運営の充実と諸経費の確保 【改善案】少人数、少ない予算で博物館事業を実施しなければならないことから、全職員の共通理解を図り、学芸課と庶務課が協働しながら運営していく。
有識者所見					
②評価の実施					
A. 評価の実施と結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価及び外部評価の実施状況 P.D.C.A.サイクルへの反映状況 	自己評価及び外部評価の実施と評価結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> 各部署において自己評価を行い、有識者による外部評価を受けている。 評価の結果を基に、事業活動や業務運営に反映させている。 	継続実施	【課題】特になし。 【改善案】
有識者所見					
2.組織と運営等					
①組織・人員					
A. 職員の研修	<ul style="list-style-type: none"> 研修への参加体制の整備状況 参加状況(種類・件数・人数) 	前年度並みの参加件数	<ul style="list-style-type: none"> 当館の事業に支障のない範囲で、可能な限り積極的に参加している。 4件 4人 <内訳> 関東地区博物館研究会: 2件 2人 千葉県博物館協会調査研究委員会研究報告会:1件 1人 千葉県美術館・博物館等職員研修会:1件 1人 	前年度並みの参加件数	【課題】特になし。 【改善案】
有識者所見					
②県民ニーズに則した運営					
A. 利用者数	<ul style="list-style-type: none"> 当該年度の利用者数 前年度比較による傾向 	前年度を上回る入館者数	入館者数 98,376人 個人 93,520人 一般 72,693人 高大学生 520人 中学生以下 20,307人 団体 4,856人(123団体) <平成24年度> 入館者数 103,121人 個人 98,214人 一般 77,186人 高大学生 505人 中学生以下 20,523人 団体 4,907人(128団体)	前年度を上回る入館者数	【課題】入館者数の減少。 【改善案】 展覧会の入館者増や普及事業の参加者増を図るため、当館ホームページのトップページを魅力あるデザインに改善し、活動内容を知ってもらう。また、来館者の居住地を調査し、啓発用ポスターやチラシの効果的な配布先を検討して実践する。
B. 満足度・ニーズ等の調査	<ul style="list-style-type: none"> 実施方法と結果 結果の事業への反映状況 	利用者の満足度などに関する調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> 実施方法と結果 アンケート調査を実施し、満足度については意見・要望等の欄を設け、具体的に当館のどの点が良く、どの点を改善して欲しいのかを聴取している。その結果、館内がきれいで、受付職員の対応が良いという意見が多かった。 結果の反映 来館者の意見・要望に対して、応えられるものは速やかに改善している。そして、その対応をカードに記載し、掲示している。 	継続実施	【課題】 特になし。 【改善案】
有識者所見					
<ul style="list-style-type: none"> 過去に実施した企画展のアンケート調査結果を精査し、来館者の居住地を洗い出す。そして、毎回来館している地域はもちろんのこと、企画展の内容によって変動する地域にも重点的に広報する。 治水や利水の観点からばかりでなく、親水にも力を入れ、館外での活動にシフトして総合的に取り組む。館のあり方そのものを見直し、新たな事業展開を検討する時期を迎えている。 家族層を取り込む。そのためには、例えば「昔のくらし展」でボランティアの方が子供たちにコマ回しを教えたりしているのだからそういう光景をホームページに掲載して、どんどん活動内容をアピールする。また、動画をユーチューブに掲載するのもよい。(村井) 					

大項目		自己評価				課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
3.施設・設備						
①アメニティーの向上						
A. バリアフリー	・ バリアフリー対策の実施状況	バリアフリー対策の実施	エレベーター、スロープ、車椅子、ベビーカー、車椅子用トイレを設置している。	継続実施		【課題】 特になし。 【改善案】
B. アクセス	・ 交通機関(含誘致)と駐車場の状況 ・ アクセス案内の状況	アクセス案内の実施	バス(3系統)の運行、駐車場(100台)の完備、案内表示の設置などをホームページで案内している。また、インターネットを利用できない人には、ファックスなどで対応している。	継続実施		【課題】 交通機関のアクセスが悪い。 【改善案】 バスの増便が計れるように、当館の景観を観光スポットとして宣伝し、来場者を増やすよう努める。
C. ミュージアムショップ	・ 利用者満足度とニーズの把握状況 ・ 結果の反映状況	ミュージアムショップの充実	売店の利用者には好評である。	継続実施		【課題】 特になし。 【改善案】
有識者所見						
4.財源						
①予算の確保						
A. 入場料収入・その他の事業収入	・ 当初計画に対する収入の達成状況 ・ その他の収入の状況	達成率:100%	・ 入場料収入の達成率:87% ・ その他の収入の達成率:107% <内訳> 教育施設使用料 自動販売機等電気料 傷害保険料	達成率:100%		【課題】 有料入場者の拡大。 【改善案】 家族ぐるみの入場者を増やすため、館内に子供が楽しめるクイズ形式のゲームを設けたり、子供たちに分かりやすい展示パネルを設置する。
有識者所見						
②館独自の財源獲得						
A. 外部助成金等の獲得	・ 獲得計画に対する達成状況	前年度並みの獲得件数	1件 (公財)日本海事科学振興財団	前年度並みの獲得件数		【課題】 企画展において1件の外部助成金を得ているが、助成の条件が厳しい状況になっている。 【改善案】 助成金支援団体の担当者と連絡を密にし、相談しながら助成の条件をクリアしていく。一方で、ほかの助成金支援団体を探し、助成金の獲得に努める。
有識者所見						
5.収集・保存及び活用						
①資料の管理と収集						
A. 収蔵点数と収集点数	・ 収蔵資料の件数と点数 ・ 新収集資料の件数と点数		・ 収蔵資料 文書・美術工芸・民俗・写真・絵葉書:2098件、28,218点 考古:40箱(整理箱) ・ 新収蔵資料 2件、6点			【課題】 資料の増加に伴い、収蔵庫内の機能的な収納と管理。 【改善案】 継続的に資料整理し、収納棚の有効活用を図る。
B. 登録	・ 収蔵資料の管理(台帳等整備)状況	収蔵資料の台帳登録による管理	寄付資料1点を台帳に登録した。	継続実施		【課題】 特になし。 【改善案】
C. 維持管理と修復・保存処理	・ 定期的な維持管理の実施状況 ・ 資料の修復作業・保存処理の状況	定期的な維持管理と修復作業・保存処理の実施	・ 維持管理 温湿度の日常点検を実施している。 ・ 資料の修復作業、保存処理 今年度未実施。	継続実施		【課題】 予算の確保。 【改善案】 毎年、継続的に予算要求する。
有識者所見						
②資料の活用						
A. 要望に応じた貸出等	・ 研究や展示等、資料の貸出状況	前年度並みの資料貸出件数	・ 実物資料: 5件(8件減) ・ 写真資料:20件(10件減)	前年度並みの資料貸出件数		【課題】 特になし。 【改善案】
有識者所見						
③図書室の公開						
A. 図書資料の閲覧	・ 閲覧システムの構築状況 ・ 利用状況と利用者満足度	図書閲覧などの実施	・ 図書担当を決め、いつでも閲覧できる体制を整え、貸出も 行っている。 ・ 貸出:2件 3冊	継続実施		【課題】 図書閲覧の利用者が少ない。 【改善案】 図書の閲覧ができることをホームページなどで紹介するとともに、友の会会員には図書の貸出も可能であることを告知する。
有識者所見						

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
6.調査・研究					
①調査事業					
A. 調査事業の件数	・ 使命に基づく調査研究の実施状況	前年度並みの調査事業件数	8件 職員及び当館展示協力員が各自でテーマを設定し、使命に基づいた調査・研究を行っている。	前年度並みの調査事業件数	【課題】 職員と当館展示協力員の共同調査及び共同研究。 【改善案】 当館展示協力員会議において、職員と展示協力員が共同で実施できるようなテーマを決め、連携して調査・研究を行う。
有識者所見					
②外部との調査・研究					
A. 外部との調査研究の件数	・ 共同研究等の実施状況	共同研究等の実施	今年度未実施	共同研究等の実施	【課題】 外部団体などとの共同研究。 【改善案】 今後、外部団体などと共同して調査・研究を行う環境をつくり、ホームページなどで募る。
有識者所見					
③研究成果の発表					
A. 展示等への反映	・ 展示への反映状況 ・ 普及事業への反映状況	研究成果を反映させた展示・普及活動の実施	・ 展示事業 1年間、調査・研究してきた成果を企画展「川が結ぶ」で反映した。 ・ 普及事業 当館展示協力員が研究成果を「研究報告」に掲載するとともに、「博物館セミナー」で発表した。	継続実施	【課題】 特になし。 【改善案】
有識者所見					
7.展示					
①常設展示					
A. 展示の更新と保守・点数	・ 展示替の実施状況 ・ 保守・管理の実施状況	前年度並みの展示替回数	・ 展示替 9回(2回増) <内訳> 2階企画展示室:3回 3階多目的室:6回 ・ 保守・管理 毎日、展示室の温度計と湿度計を点検し、展示資料の管理を行っている。	前年度並みの展示替回数	【課題】 湿度の調節が自由にできない機械になっている。そのため、夏場は湿度が高く、冬場は湿度が低くなってしまう。 【改善案】 機械設備員と相談しながら、応急処置を執る。また、湿度調節の方法を検討していく。
B. 満足度	・ 利用者満足度の把握状況 ・ 結果の反映状況	アンケート調査の実施	・ 満足度 アンケートの項目に、来館者の意見・要望の欄を設け、来館者の声を具体的に聴取している。その結果、関宿藩の歴史や利根川水運について理解できたという意見が多かった。 ・ 結果の反映 来館者の意見・要望に対して、応えられるものは速やかに改善している。そして、その対応をカードに記載し、掲示している。	継続実施	【課題】 来館者の意見・要望で、関宿藩関係資料の充実という意見があった。 【改善案】 展示スペースの関係で、これ以上展示資料を増やすことはできないが、定期的な展示替を行って展示内容の充実を図る。
有識者所見					
②企画展示(変更)					
A. 企画数、利用者数、満足度	・ 実施状況 ・ 年齢・地域等入場者の動向把握 ・ 来館者満足度の状況	・ 前年度並みの企画数 ・ 前年度を上回る入場者数 ・ 「非常に良かった」「良かった」が80%以上	1回 13,298人(5,985人減) 83% ・ 年齢別 23% 60歳代 19% 70歳代以上 13% 30歳代 ・ 地域別 千葉県 39% 埼玉県 27% 茨城県 17%	・ 前年度並みの企画数 ・ 前年度を上回る入場者数 ・ 「非常に良かった」「良かった」が80%以上	【課題】 入場者数の減少。 【改善案】 当館の立地場所により、県内外を問わず、来館者が多い市町へ重点的に広報を行う。
有識者所見					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
③企画展示(変更なし)					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況 年齢・地域等入場者の動向把握 来館者満足度の状況 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度を上回る企画数 前年度を上回る同時期の入場者数 「非常に良かった」「良かった」が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 11回(2回増) 入場者数及び満足度 地井紅雲版画展－白と黒の世界part1－ 28,591人(7,994人増) 84% コーナー展「浮世絵で見る下総の風景」 16,402人(1,344人増) 82% 2013国際博物館の日記念事業 昔のくらし展 12,165人(228人減) 91% 昆虫展－身近な生き物たち－ 16,959人(898人増) 88% 第37回千葉県移動美術館 1,976人 91% 本橋尚徳スケッチ小品展「関宿城の四季」 5,789人(692人減) 97% 関宿城写生コンクール作品展 3,123人(464人減) 模型展「水を制する技術」 6,054人(766人減) 93% 風の競演 7,224人(240人減) 第14回関宿城百景写真展 5,126人(2,686人減) 地井紅雲版画展－白と黒の世界part2－ 8,461人(2,762人減) 85% 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度を上回る企画数 前年度を上回る同時期の入場者数 「非常に良かった」「良かった」が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 入場者数は、12月から3月にかけて実施した展示事業が軒並み減少している。 【改善案】 入場者数は土・日の天候に大きく左右されるが、ミニコミ誌や情報誌に取り上げられるような広報内容を提供する。
有識者所見					
④館外での展示					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況(要望件数等) 利用者が満足しているか 	館外での展示の実施	今年度未実施	館外での展示の実施	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 館外展示の要望がない。 【改善案】 昔の道具を扱った展示ができることをホームページなどで周知する。
有識者所見					
⑤他館との合同企画による展示					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況(ネットワーク) 利用者が満足しているか 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度並みの企画数 前年度の同時期を上回る入場者数 「非常に良かった」「良かった」が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 1回 第37回千葉県移動美術館(千葉県立美術館) 1,976人 91% 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度並みの企画数 前年度の同時期を上回る入場者数 「非常に良かった」「良かった」が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 特になし。 【改善案】
有識者所見					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
8.教育普及事業					
①参加体験事業					
A.回数と参加者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> 種類と回数、参加者数 参加者は満足しているか 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度並みの回数 参加者数の定員充足率が80%以上または前年度を上回る参加者数 「非常に良かった」「良かった」が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 31回 そば打ち(6回) 94人(78%) 94% 小麦まんじゅうづくり(4回) 101人(84%) 96% 投網漁と川魚料理(1回) 15人(75%) 100% こんにゃくづくり(1回) 30人(100%) 100% 鷹菜漬け(4回) 31人(78%) 97% 河川敷のいきものさがし(2回) 7人(18%) 91% 飛ばせ水ロケット(1回) 19人(95%) 100% 関宿城下を歩こう(1日コース)(3回) 65人(72%) 100% 関宿城下を歩こう(半日コース)(2回) 32人(53%) 96% 版画年賀状教室(1回) 10人(100%) 100% 関宿城新春たこあげ(1回) 263人(83人減) 歴史散歩(1回) 19人(95%) 95% 第15回関宿城将棋大会(2回) 123人(96%) 関宿城で初日の出を見よう(1回) 36人(90%) 関宿城まつり、関宿城さくらまつり(1回) 23,000人(16,870人増) 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度並みの回数 参加者数の定員充足率が80%以上または前年度を上回る参加者数 「非常に良かった」「良かった」が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】「河川敷のいきものさがし」の参加者数が圧倒的に少ない。 【改善案】子供向けのチラシを作成し、近隣市町の幼稚園・小学校に配付して参加を呼びかける。
有識者所見	<p>活動状況を文字だけでなく、ビジュアルデータ使ってホームページなどで「見える化」していくことが重要。活動するミュージアム像をアピールすべき。たこあげなどは動画での紹介も検討すべき。</p> <p>「河川敷のいきものさがし」の参加者増の施策については、次のような取組を提案したい。</p> <p>まず、名称は、堅苦しいプログラムではなく、楽しさが伝わるようなものに変更。実施時期は、夏休みにし、学校の自由研究に役立つ。自由研究の成果を博物館で発表し、再来館の契機にする。活動状況や活動結果をビジュアルや動画をアップし、ホームページに紹介する。(村井)</p>				
②講演会・講座					
A.回数と参加者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> 種類と回数、参加者数 参加者は満足しているか 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度並みの回数 参加者数の定員充足率が80%以上 「非常に良かった」「良かった」が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 14回 古文書を読む(6回) 161人(134%) 87% 川が結ぶ(1回) 55人(110%) 97% 博物館セミナー(7回) 109人(52%) 87% 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度並みの回数 参加者数の定員充足率が80%以上 「非常に良かった」「良かった」が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】博物館セミナーの参加者数が少ない。 【改善案】セミナーの内容が歴史系ばかりでなく、自然系や河川土木系も取り扱っているのので、分野別に広報先を変えるなどして広報の仕方を工夫する。
有識者所見	<p>「博物館セミナー」ではどんな講座かわかりづらい。「博物館セミナー」だけでなく、すべての事業について、中身が容易に伝わる事業名をつけるように心がけるべき。(村井)</p>				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目					
細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
9.情報の発信					
①県民への直接的情報提供					
A. 電話・来館面接等の質問	・件数と対応状況	前年度並みの手紙及びメールによる質問の件数	12件 ・質問の内容 利根川水運について 関宿関所について 花押の人物について 川船について 関宿城について 水呑百姓の生活について 無条件降伏について 関宿藩の牢屋敷について 蒸気機関車について 関宿城関連建築物について	前年度並みの手紙及びメールによる質問の件数	【課題】 特になし。 【改善案】
有識者所見					
②メディア					
A. 館事業(含調査研究)の情報提供	・提供件数 ・掲載件数の状況	・前年度並みの提供件数 ・前年度を上回る掲載件数	提供件数 33か所/月(1か所/月減) ・掲載件数 382件/年(75件/年減)	・前年度並みの提供件数 ・前年度を上回る掲載件数	【課題】 掲載件数の減少。 【改善案】 事業内容が分かりやすく、興味を引くような記載に工夫する。
有識者所見		文章だけでなく、ヴィジュアルも活用して、情報提供していくよう心がける。(村井)			
③ホームページ					
A. ホームページによる情報発信	・更新件数 ・資料登録件数の状況 ・アクセス数の状況	・前年度を上回る更新件数 ・前年度並みの資料登録件数 ・前年度を上回るアクセス数	・更新件数 447件/年(227件/年増) ・資料登録件数 5,658件 ・アクセス数 2,402件/月(546件/月減)	・前年度を上回る更新件数 ・前年度並みの資料登録件数 ・前年度を上回るアクセス数	【課題】 アクセス数の減少。 【改善案】 トップページを惹きつけられるデザインにし、お知らせや最新情報をリアルタイムで更新するようにする。
有識者所見		活動的なミュージアムであることを強調できるよう、ヴィジュアルや動画なども多用すべき。なるべく、来館者や参加者が楽しく活動している様子を掲載する。(村井)			
④刊行物					
A. 印刷物による広報	・種類と部数 ・配付等の状況	・前年度並みの種類と部数 ・前年度並みの配布先	・種類と部数 <内訳> 案内リーフレット:15,000部 「関宿城下を歩こう」リーフレット:10,000部 企画展ポスター:500枚 企画展チラシ:70,000枚 企画展図録:700部 啓発用ポスター:500枚 啓発用チラシ:50,000枚 研究報告:200部	・前年度並みの種類と部数 ・前年度並みの配布先	【課題】 特になし。 【改善案】
有識者所見					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
10. 県民参画					
① 県民との協働					
A. ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活用システムの構築 登録者数と活動状況 育成のための研修等の実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度並みの登録者数と活動延べ人数 前年度並みの研修回数 	<ul style="list-style-type: none"> 登録者数と活動状況 20人(2人増) 展示解説: 65回 延べ65人 資料整理: 68回 延べ68人 古文書の解説: 20回 延べ116人 そば打ちの指導: 6回 延べ6人 「昔のくらし展」における道具体験の指導: 12回 延べ12人 育成のための研修等の実施状況 古文書研究会: 20回 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度並みの登録者数と活動延べ人数 前年度並みの研修回数 	<p>【課題】 展示解説員が高齢で一人しかいないので、人材を募集し、育成する必要がある。</p> <p>【改善案】 友の会会員に展示解説員を募ったり、ホームページ等で公募し、育成する。</p>
B. 県民からの情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 情報入手体制の状況 対応状況 	情報入手および対応の実施	不定期に電話又はチラシなどによる情報提供があり、対応している。	継続実施	<p>【課題】 特になし。</p> <p>【改善案】</p>
C. 友の会	<ul style="list-style-type: none"> 会員数(増減) 活動状況(館との連携・単独事業) 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度を上回る会員数 前年度並みの単独事業数 	<ul style="list-style-type: none"> 87人(6人減) 館との連携 企画展内覧会の受付・案内 企画展解説会の案内 野外講座における参加者の人員点呼・安全確保 単独事業 3事業 <内訳> 「歴史と文化を探る 第2回歴史探訪」 「ミニ門松作り」 「ダイヤ凧作りと凧揚げ」 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度を上回る会員数 前年度並みの単独事業数 	<p>【課題】 会員数の減少。</p> <p>【改善案】 会員が実施してほしいイベントをアンケート調査し、それを実施することによって会員の交流の場として活動を活性化していく。</p>
有識者所見	友の会会員数を増やすために、数値目標を定めて臨むべき。また、展示開発やプログラム開発の際、モニターとして活動に参画してもらえよう声がけし、双方向型の関わり方も検討したい。				
② 外部との連携・調査					
A. 実施の状況	<ul style="list-style-type: none"> 受入態勢等の構築状況 実施状況 	受入態勢等の実施	今年度未実施	受入態勢等の実施	<p>【課題】 なかなか外部機関と連携して事業を実施する機会がない。</p> <p>【改善案】 常日頃、アンテナを高くして連携を希望する外部機関の情報をキャッチすることに努める。</p>
有識者所見	行政区の枠を超えて、周辺の企業・工場、役所、小中高校・大学、道の駅、少年自然の家、ゴルフ場、動物園、博物館施設、図書館など、まずはリストアップし、自館のジャンルとクロスオーバーしつつ、地域貢献できるコンテンツを協働で考えていく場づくりに取り組むべき。(村井)				
11. 人材育成					
① 博物館実習					
A. 回数・人数	<ul style="list-style-type: none"> 受入態勢等の構築状況 回数、校数と参加者数 	前年度並みの学校数と参加者数	年間1回の受入 7月23日～31日: 2校、2人	前年度並みの学校数と参加者数	<p>【課題】 特になし。</p> <p>【改善案】</p>
有識者所見					
② 教員等研修					
A. 回数・人数	<ul style="list-style-type: none"> 受入態勢等の構築状況 回数、校数と参加者数 	受入態勢等の実施	今年度未実施	受入態勢等の実施	<p>【課題】 今年度は、教員等研修の依頼がなかった。</p> <p>【改善案】 当館が教員研修の場として受け入れていることを近隣市町の教育委員会や学校に周知する。</p>
有識者所見	防災を切り口としたプログラムを開発し、ニーズに合致するよう研究開発が必要。(村井)				
③ 職場体験学習・インターンシップ					
A. 回数・人数	<ul style="list-style-type: none"> 受入態勢等の構築状況 回数、校数と参加者数 	前年度を上回る受入の回数、学校数と参加者数	<ul style="list-style-type: none"> 6回(2回増) 7校(2校増) 18人(7人増) <内訳> 職場見学 12月17日: 1校 3人 職場体験 6月19日～21日: 1校 2人 6月26日～28日: 1校 1人 9月4日: 1校 1人 インターンシップ 8月6日～8日: 2校 5人 11月13日～14日: 1校 6人 	前年度を上回る受入の回数、学校数と参加者数	<p>【課題】 特になし。</p> <p>【改善案】</p>
有識者所見					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
12. 県民等からの依頼による学習支援					
① 展示等の活用					
A. 解説の回数、利用者数と満足度	・回数と利用者数 ・利用者ニーズの把握状況	前年度を上回る 解説の回数と利用者数	87回(11回減) 2,729人(233人減)	前年度を上回る 解説の回数と利用者数	【課題】 団体解説の回数と利用者数の減少。 【改善案】 視察に来た団体には、見学時間にあつた解説が実施できることを告知する。
有識者所見					
② 館内での講座・講演会					
A. 回数、利用者数と満足度	・回数と利用者数 ・利用者ニーズの把握状況	前年度並みの回数と利用者数	1回 11人 利根町立歴史民俗資料館の研修会	前年度並みの回数と利用者数	【課題】 特になし。 【改善案】
有識者所見					
③ 学校連携					
A. 学校団体の受入	・受入校数と回数、人数 ・利用者ニーズの把握状況	前年度を上回る 学校数と人数	17校(7校減) 1,067人(385人減) <内訳> 小学校 15校 996人 特別支援学校 2校 71人	前年度を上回る 学校数と人数	【課題】 学校数と人数の減少。 【改善案】 ホームページのトップページに学習支援のコーナーを設け、当館の魅力を発信する。
B. 出前授業	・実施校数と回数、人数 ・利用者ニーズの把握状況	前年度を上回る 学校数と人数	1校(同じ) 20人(90人減) <内訳> 小学校 1校 20人	前年度を上回る 学校数と人数	【課題】 受講者の減少。 【改善案】 依頼する学校の生徒数の規模によって、受講者数は左右するが、ホームページのトップページに学習支援のコーナーを設け、出前授業の受入を告知し、依頼する学校数を増やす。
有識者所見	提供できるプログラムがわかるように提示すべき。ないのであれば開発が必要。開発の際、自分たちだけでやらずに、協働体制で臨むようにすれば、外部との連携も生まれてくるはず。(村井)				
④ 外部講師依頼					
A. 依頼の状況、回数と人数	・支援体制の状況 ・回数と参加者数 ・利用者ニーズの把握状況	前年度を上回る 依頼回数と参加者数	7回(1回増) 332人(78人減) <内訳> 生涯大学校 2回 175人 教育研究会 1回 32人 市民団体 1回 45人 学童保育 3回 80人	前年度を上回る 依頼回数と参加者数	【課題】 参加者数の減少。 【改善案】 毎年依頼される生涯大学校の依頼が無かったことが、参加者数の減少につながっていると思われる。そこで、講演内容を刷新したり、講演のテーマを増やしたりして魅力ある講演に努める。
有識者所見					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
13.地域づくりへの支援					
①地域との連携事業					
A. 機関・地域住民等との連携	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況(種類と件数) ニーズの把握の状況 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度並みの事業件数 各事業の定員充足率が90%以上。または前年度を上回る来場者数 	2件 <ul style="list-style-type: none"> 日本将棋連盟関根金次郎支部との連携 <関宿城将棋大会> 大人の部:62人(97%) 子どもの部:61人(95%) 野田市関宿商工会青年部、野田市関宿商工会との連携 <関宿城さくらまつり・関宿城まつり> 23,000人(16,870人増) 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度並みの事業件数 各事業の定員充足率が90%以上。または前年度を上回る来場者数 	【課題】 特になし。 【改善案】
有識者所見 (「10.県民参画 ②外部との連携・調査」との区分けが分かりづらい。こうした活動も外部との連携ではないのか。)(村井)					
②観光資源としての活用					
A. 県外団体来館数	<ul style="list-style-type: none"> 団体数 地域等の傾向 	前年度を上回る 県外団体来館数	63団体(2団体増) <内訳> 埼玉県 27団体 茨城県 20団体 東京都 8団体 栃木県 5団体 群馬県 2団体 神奈川県 1団体	前年度を上回る 県外団体来館数	【課題】 特になし。 【改善案】
B. 外国人入場者数	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数 地域等の傾向 	前年度より上回る 入場者数	134人(85人減)	前年度より上回る 入場者数	【課題】 外国人入場者の減少。 【改善案】 英語版・中国語版の案内パンフレットが作成してあるので、効果的に広報用として活用する。
有識者所見 生涯大学校、社会福祉協議会などの利用も多いのであれば、身体障がい者への配慮は重要。 <ul style="list-style-type: none"> 車イスの方に展示物が見やすい高さになっているか、学芸員は車イスに乗って確認しておく。 スロープや身体障がい者専用トイレなどが、館内のどこにあるかを表示した案内図をホームページに掲載する。(村井) 					

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	
1.使命と計画					
①中長期計画					
A. 目標と計画・重点事業の構築、事業への活用	・ 目標の設定、具体的計画の策定状況 ・ 事業への活用状況	継続実施	指定管理制度の5か年計画を基に事業を遂行してきた。よく活用している。これまでの達成状況をもとに新5か年計画を作成した。	継続実施	【課題】新たな中期計画を念頭に入れた事業運営。 【改善案】
有識者所見	新5か年計画に基づき実施してください。(戸枝)				
②評価の実施					
A. 評価の実施と結果の反映	・ 自己評価及び外部評価の実施状況 ・ P.D.C.A.サイクルへの反映状況	継続実施	自己評価は館独自の項目を加えたチェック票を使用。外部評価はアドバイザー会議や博物館評価に関する有識者会議により実施。評価内容や所見について、必ず対応策を講じ、改善できる部分から実施している。	継続実施	【課題】評価事業の実施と継続的な手法等の見直し。 【改善案】評価検討会及び有識者意見交換会等において、恒常的に協議し、見直しを具現化する。次年度からもさらに独自の自己評価を導入する。
有識者所見	改善案に基づき進めてください。単年度計画に反映できるものは実施し、効果をみてください。(戸枝)				
2.組織と運営等					
①組織・人員					
A. 職員の研修	・ 研修への参加体制の整備状況 ・ 参加状況(種類・件数・人数)	継続実施 新任職員研修:2回 まつり実施のための研修:6回:360人 不審者対策、食品衛生、接客・マナー、防災・AED使用対応、個人情報保護関係研修:各1回:延べ150人 嘱託職員研修:24回:144人	運営・事業・博物館全般・21世紀の博物館像等に関する、県主催・各種博物館協会・各館研修、学会等外部機関及び館内で行う研修会等、業務の都合で参加できない場合を除き、全員が積極的に参加する体制をとっている。 外部研修(無形民俗文化財研究協議会、救急法救急員講習等15件)に参加。研修修了者による館内部での伝達講習会なども適宜実施。まつり実施のための研修(12件)。嘱託職員研修(24件)都合51件	継続実施 新任職員研修:2回 まつり実施のための研修:6回 不審者対策、食品衛生、接客・マナー、防災・AED使用対応、個人情報保護関係研修:各1回 嘱託職員研修:24回	【課題】特になし。研修内容や成果については、研修者が報告書の形にまとめ、復命書の形で館職員に回覧し、知識の共有を図っている 【改善案】
有識者所見	嘱託職員の比率が高いことから、防災、AED使用対応のについての研修は、年複数回の開催を望みます。(加藤) 食品を提供する場所でもあり、食品衛生研修や屋外博物館として、防災避難研修は、保健所、警察、消防の協力を得て、十分に行ってください。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
②県民ニーズに則した運営					
A. 利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ・当該年度の利用者数 ・前年度比較による傾向 	総入館者数28万人・参加体験事業参加者総数15万人	<ul style="list-style-type: none"> ・当該年度の利用者数 昨年度同様に、小学校の団体が減少した他は、目立った変化は見られない。大雪などの悪天候が多く、入館者数が伸びなかった。 総数：268,659人 (累計：6,274,759人) 個：224,746人 団：625団体43,913人 一般75,212人 高大3,323人 学齢前14,839人 小中85,178人 高齢85,085人 障害：5,022人 体験：131,896人 HPアクセス：300,256件 資料閲覧：4件 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度比較による傾向 総数(96%) 個(97%) 団体数(87%)団体人数(91%) 一般(91%) / 高大(96%) / 学齢前(102%) / 小中(97%) / 高齢(99%) / 障害(102%) 体験(94%) / HPアクセス(106%) / 資料閲覧(26%)	前年度並み	【課題】博物館利用者の拡充。特に広報が課題。 【改善案】マスコミなどへの情報提供や広告掲載等に更なる力を入れ、周知を図る。
B. 満足度・ニーズ等の調査	<ul style="list-style-type: none"> ・実施方法と結果 ・結果の事業への反映状況 	継続実施	入館者に対し、アンケート及び意見等の調査を実施。また、ホームページに館のアドレスを載せているため、県民から直接意見が聞けるようになっている。またブログでは、閲覧者がコメントを投稿できる体制となっている。アンケート結果は毎月集計し、回覧し、業務に反映させている。	継続実施	【課題】ブログ上の意見等への対応 【改善案】新しい調査法を工夫していきたい。県内の大学と連携したマーケティングリサーチなどを進め、対象を明確に設定することで、新たな利用者の発掘・獲得を図る。
有識者所見	成田空港に近い立地と活かすためにも、外国人向けホームページの記載を充実していただきたい。特に、英文での情報発信強化を願いたい。(加藤) 利用者のHPのアクセス数は、おおむね昨年並みと考えられる。イベント実施計画には、周辺地域のイベント情報も考慮する必要がある。(戸枝)				
3.施設・設備					
①アメニティーの向上					
A. バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー対策の実施状況 	継続実施	景観再現という観点があり、完全バリアフリー化は難しい。その中で、今年度は総合案内所2階への階段に手すりを設置した。	継続実施	【課題】景観再現とのすり合わせ 【改善案】職員による介助と可能な範囲でのバリアフリー化の取り組み
B. アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・交通機関(含誘致)と駐車場の状況 ・アクセス案内の状況 	サイン設置の検討	8ヶ月間のJR成田線成田駅からの直通便を引き続き実施した。	サイン設置の検討	【課題】インフォメーションの充実 【改善案】ホームページ等でインフォメーションを充実させる。
C. ミュージアムショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者満足度とニーズの把握状況 ・結果の反映状況 		重点評価対象事業となったこともあり、改良を図った。導線の見直し、商品の配置、照明の整備などを行ったところ、目にみえて売店に足を運ぶ人が多くなった。マスコットキャラクターぼうじろーのグッズ4種を新商品として開発した。		【課題】伝統工芸品販売は館の使命と直結し、縮小は考えないがその他の商品の入れ替え、新商品の開発など工夫が必要。 【改善案】展示施設など各所での販売の拡充、無料エリアへの売店設置についても検討。
有識者所見	館に対する地域の期待は、物販による経済振興もあるので、館の使命に相応しい伝統工芸品の品揃の強化と、地域資源の商品化を図り、自主財源の確保にも努めていただきたい。(加藤) 高齢者、障害者の利用も多く、バリアフリー化を進めてください。「むら」の民家の屋根、見学路にある擬木状手摺りの点検が必要ではないでしょうか。高齢者、障害者、外国人も利用するので、トイレについては検討してください。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目		4.財源			
①予算の確保					
A. 入場料収入・その他の事業収入	・ 当初計画に対する収入の達成状況 ・ その他の収入の状況	25年度入場料収入目標18,000千円 25年度事業収入目標47,000千円	入場料収入:16,321,460円 目標値比90%/前年度比90% 事業収入:4454万円 目標値比94%/前年度比94% 製作体験費や生産物販売などの収入が伸びなかった。	前年度並み	【課題】入場料収入が生じる層の掘り起こしの強化が課題。 【改善案】特に広報に力を入れ、マスコミなどへの情報提供を進める。
有識者所見	入場料と事業収入の減少は、館の存続を揺るがす問題であるので、適宜危機感を持って改善に努めていただきたい。(加藤) 入館者の分析を行い、課題、改善案を進めてください。(戸枝)				
②館独自の財源獲得					
A. 外部助成金等の獲得	・ 獲得計画に対する達成状況		当館の業務内容に必要な内容の外部助成が無かったため、あえて助成獲得は行わなかった。	計画的申請	【課題】多方面での情報収集 【改善案】次年度に農水省交付金を申請予定
有識者所見	外部助成は活動の充実に重要であるので、助成の動向に合わせて館の業務を組み替えるなど柔軟な対応を願いたい。(加藤) 課題のとおりです。(戸枝)				
5.収集・保存及び活用					
①資料の管理と収集					
A. 収蔵点数と収集点数	・ 収蔵資料の件数と点数 ・ 新収集資料の件数と点数	継続実施	・ 収蔵資料点数:3,534点、10,605箱 受託:23/ 寄付:2,929/ 購入:350 ・ 新収集資料はなし。収蔵施設も十分でなく、館の性格上積極的な収集は行っていない。	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
B. 登録	・ 収蔵資料の管理(台帳等整備)状況	継続実施	・ 登録点数/収蔵点数:100 %	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
C. 維持管理と修復・保存処理	・ 定期的な維持管理の実施状況 ・ 資料の修復作業・保存処理の状況	必要に応じて実施	定期的な維持管理はされているが、収蔵庫の温湿度管理は、空調設備がなく資料保存上問題。一部、収蔵庫では、毎日除湿器の稼働・排水を行っている。風土記の丘資料館では、温湿度の影響を受けない資料は一般収蔵庫に、金属資料・写真資料は特別収蔵庫に収蔵し、年度後半から温度・湿度データロガーを購入し、記録している。収蔵庫は関係者以外立入禁止で施設。民俗資料はIPM(総合的害虫管理)により管理している。風土記の丘資料館特別収蔵庫とむらの民俗資料の収蔵場所について、IPM調査を行った結果、害虫もなく、温湿度とも適正に保たれていた。資料館資料は保存処理済み。民俗資料は行っていない。考古資料の整理作業の中で軽微な修復を行った。東日本大震災により破損した「銀象嵌大刀」については、館内での修復が困難かつ予算面で対応できないため未着手。	継続実施	【課題】地震により破損した文化財の修復。 【改善案】常設展示の資料換え計画なども念頭に置きながら、修復予算の要求を継続。
有識者所見	文化財の修復と収蔵品の適切な保管は、館の最も基本的な役割であるので、予算の獲得に努力願いたい。(加藤) 自然環境の中にある資料館なので、虫・菌害については、十分注意してください。損傷資料は、修復の方向で引き続き予算要求してください。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目		H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目	評価の視点				
②資料の活用					
A. 要望に応じた貸出等	・ 研究や展示等、資料の貸出状況	要望に対して「貸出等を行っている。	資料の貸出 ・実物:16件 ・画像:32件 ・閲覧:5件	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	貸出規定によって進めてください。(戸枝)				
③図書室の公開					
A. 図書資料の閲覧	・ 閲覧システムの構築状況 ・ 利用状況と利用者満足度	継続実施	資料館1階情報室にて房総のむら発行の図録等の閲覧が常時可能になっている。	継続実施	【課題】職員が他業務と併せて行っているため、最新の学術雑誌などの整理が一部遅れ気味 【改善案】担当職員の増員
有識者所見	図書のみ扱うボランティアの導入も考えられるのではないのでしょうか。(戸枝)				
6.調査・研究					
①調査事業					
A. 調査事業の件数	・ 使命に基づく調査研究の実施状況	当館の使命に基づいた調査・研究を行っているか	演目や企画展に関連する調査を中心に、必要な調査活動を行った。	継続実施	【課題】調査・研究の継続性 【改善案】研究テーマに基づく職員間のコミュニケーションの活発化を促す。
有識者所見	演目は常に研究されていると思われます。資料館の企画展も特色ある企画です。(戸枝)				
②外部との調査・研究					
A. 外部との調査研究の件数	・ 共同研究等の実施状況	外部団体等と共同して調査研究を行っているか	史跡龍角寺古墳群・岩屋古墳の整備・活用に向けて、栄町教育委員会、成田市教育委員会と共同した研究を行った。	必要に応じて実施	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	岩屋古墳の研究。見学会はマスコミにも取り上げられ、大きな反響があったと思われます。(戸枝)				
③研究成果の発表					
A. 展示等への反映	・ 展示への反映状況 ・ 普及事業への反映状況	継続実施	トピックス展、企画展、観察会、景観整備、体験事業などに反映した。 企画展図録と、下総名所めぐり、史跡龍角寺古墳群・岩屋古墳の整備活用に向けた3冊を刊行した。また、各人による学会誌などへの発表も行われている。	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	刊行図書や研究員の学会発表などがホームページで公開されることにより、深く館の活動を理解するファンの獲得に繋がるので、資料のデジタル化を進め公開を願いたい。(加藤) ①-A、②-Aに同じ。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目		7.展示			
①常設展示					
A. 展示の更新と保守・点数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示替の実施状況 ・ 保守・管理の実施状況 	計画的な展示替え、展示の保守・管理が行われているか	計画通りに展示替をしているが、体験や行事毎に各施設で展示替えを行っているため、数値化は難しい。	継続実施	【課題】 風土記の丘資料館常設展のリニューアル 【改善案】H26年度からリニューアルに向けた資料調査を開始する。
B. 満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者満足度の把握状況 ・ 結果の反映状況 	利用者が常設展示に満足しているか	アンケートでは、ほぼ満足、満足は50%であるが、不満やや不満は3.5%であることや、ホームページ・ブログチェックでは概ね好評な意見をいただいております。満足度は高いと思われる。 <アンケート結果有効回答> 満足：34.4%、ほぼ満足：15.6%、やや不満1.6%、不満：1.9%	満足度アップ(ほぼ満足以上が90%以上)を目指す	【課題】アンケートの満足度欄の記入方法。 【改善案】
有識者所見	アンケート調査は資料館と野外施設があるので、調査方法を工夫する必要があります。資料館のリニューアルについて、改善案に基づいて進めてください。(戸枝)				
②企画展示(変更)					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施状況 ・ 年齢・地域等入場者の動向把握 ・ 来館者満足度の状況 		平成25年度企画展「印旛沼周辺の漁と食」開催時、展示室にアンケート用紙を設置し、展示担当者は入場者動向の分析も行った。 ・企画展入場料：一般200円、高・大生100円 ・企画展総入場者数：3,808人 ・印刷物：展示解説図録(900円) 入場料金：適切(アンケート結果) 利用者年齢構成 成人：1,144 学齢前163 小中生1,182 高大学30 65歳以上1,255 特別支援者34 ・非常に良かった(5.4.が大多数)	継続実施 満足度のアップを目指す	【課題】ニーズの検証 【改善案】検証結果を次回展示に反映させる。
有識者所見	企画展示は良い企画だと思いました。展示や展示解説(パネル、解説者)も分かりやすかった。(戸枝)				
③企画展示(変更なし)					
A. 企画数、利用者数、満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施状況 ・ 年齢・地域等入場者の動向把握 ・ 来館者満足度の状況 	継続実施	トピックス展、観察会、景観整備、体験事業などを実施した。企画展毎に展示室にアンケート用紙を設置、展示担当者が入場者動向の分析を行っており、アンケートの結果も概ね好評であった。	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	継続してください。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目					
④館外での展示					
A. 企画数、利用者数、満足度	・ 実施状況(要望件数等) ・ 利用者が満足しているか	継続実施	8回 「昔のくらし体験教室」「伝統文化の森まつり」「いんばふれあいえフェス」「佐倉時代まつり」「三井アウトレットパーク」など、イベント会場などで館の内容を紹介するミニ展示や、体験学習コーナー設置の要望があり、実施した。	継続実施	【課題】学校などから本格的な展示の要望があった場合の対応。 【改善案】他の県立館との役割分担。
有識者所見	継続してください。館外での活動は「むら」や資料館の周知度向上、入館者増に結びつくと思います。アウトレットパークでは、外国人も多く、「むら」を知ってもらい、良い機会です。外国語解説も必要です。添乗員、旅行会社へのPRも行ってください。(戸枝)				
⑤他館との合同企画による展示					
A. 企画数、利用者数、満足度	・ 実施状況(ネットワーク) ・ 利用者が満足しているか		2件:「第37回千葉県移動美術館」「出土遺物巡回展(+解説会)」を実施した。 アンケートの結果、概ね好評であった。	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	継続できるものは継続してください。(戸枝)				
8.教育普及事業					
①参加体験事業					
A. 回数と参加者数、満足度	・ 種類と回数、参加者数 ・ 参加者は満足しているか	体験学習参加者総数15万人	演目:年間 390種類(実演含む) ・まつり等イベント:7種 ・連携事業(音楽会・ウォークラリー等):5種 随時受付があるため、正確な回数は算出不能。 アンケート調査による5段階評価: 満足40% やや満足5.3% やや不満1.8% 不満0% 回答者の9割以上が、満足・やや満足と解答している。 体験参加者総数:131,896人 入館者数の減少にともない、体験者数も減少した。まつり等のイベントを含む土・日に悪天候が多かったこと要因の1つと考えられる。	体験学習参加者総数14万5千人	【課題】技術の入口から高度な段階の習得までを見据えた演目開発をすることで、内容の充実をはからなければならない。 【改善案】
有識者所見	体験学習は、「むら」の特徴でもあります。継続してください。リピーター一度の調査も行ったらどうか。(戸枝)				
②講演会・講座					
A. 回数と参加者数、満足度	・ 種類と回数、参加者数 ・ 参加者は満足しているか	・考古学講座、むらの寺子屋、おもしろ講座各年4回 実施:定員充足率95%総数約532人	12回 ・考古学講座(4回)・むらの寺子屋(4回)・おもしろ講座(4回) ・参加者数:744人(定員充足率:133%) おもしろ講座にチャンバラ指南を新規演目で導入したところ好評だったので、継続したい。考古学講座は、毎回安定した集客力があり、特に「鉄の考古学」は人気が高かった。 ・非常によかった、面白かったという意見が多かった。	継続実施 満足度アップを目指す	【課題】 【改善案】
有識者所見	継続してください。「鉄」講座が好評なので、多方面から「鉄」について講座を行ってみたいらどうか。(美術、武器武具、民俗、信仰など)(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目					
細目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
9.情報の発信					
①県民への直接的情報提供					
A. 電話・来館面接等の質問	・ 件数と対応状況	継続実施	職員が在館していれば、休館日や時間外でも対応している。各施設担当者への電話や来館による質問や問い合わせが、日常的になされており、正確な件数把握は困難である。	継続実施	【課題】職員個々の対応力アップ 【改善案】対応体制の充実
有識者所見		電話や接客時の質問や情報を集計分析し、演目や企画展、印刷物などへ反映したらどうか。(戸枝)			
②メディア					
A. 館事業(含調査研究)の情報提供	・ 提供件数 ・ 掲載件数の状況	継続実施	チラシ定期的な情報発信 有料紙面による広報広告などの展開協力要請への対応 101件	継続実施	【課題】企画展時などのメディアへの情報発信。 【改善案】積極的発信を目指す。
有識者所見		マスコミ等への露出回数も多くなってきたと思われます。継続が必要です。(戸枝)			
③ホームページ					
A. ホームページによる情報発信	・ 更新件数 ・ 資料登録件数の状況 ・ アクセス数の状況	継続実施	ブログの定期的な更新 :140回 資料検索システムの登録件数42,942件 アクセス件数298,177件	継続実施	【課題】 【改善案】件数等の充実 はもとより、幅広い層への内容の充実も図る。
有識者所見		ブログ等の情報更新の頻度を更に高めることでアクセス件数は増加するので、発信情報の更新頻度を高めていただきたい。(加藤) 改善案に基づき進めてください。(戸枝)			
④刊行物					
A. 印刷物による広報	・ 種類と部数 ・ 配付等の状況	継続実施	体験のしおり:3,500部 大木戸:2,500×2=5,000部 企画展図録:300部 一般販売及び関係者への配布	継続実施	【課題】紙媒体の有効活用 【改善案】効果測定を行い、戦略的な広報活動を実施する。
有識者所見		館外での広報展示を行う時に紙媒体は有効です。手にとってもらうリーフレットが必要ではないか。(戸枝)			
10.県民参画					
①県民との協働					
A. ボランティア	・ ボランティア活用システムの構築 ・ 登録者数と活動状況 ・ 育成のための研修等の実施状況	継続実施	活動日数に差があるが、本館の趣旨を理解し活動している。ボランティアからの提案を受け、昔の遊び方を指導する活動の場を新たに設けた。 登録者数:104人 活動延べ人数:115人 活動延べ日数:515日 総会及び定例会(3回:47人) (新人研修会4回:15人)等で活動内容を確認しながら進めている。 特に学芸員による企画展、トピックス展の解説を行った。また、今年度から、新規のボランティアに対して研修会を実施し、15人が登録した。	継続実施	【課題】必要な研修内容の リサーチ 【改善案】ボランティアとの対話の中で随時改善を図るなど必要な事項の検討及び具現化
B. 県民からの情報提供	・ 情報入手体制の状況 ・ 対応状況	継続実施 (会員数増減なし)	電話、電子メール、アンケート、体験者との対話等、日常的に得られるので、件数ははかりかねるが、資料調査等博物館の様々な活動の情報源のひとつとして積極的に取り入れている。	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
C. 友の会	・ 会員数(増減) ・ 活動状況(館との連携・単独事業)		会員数:56(賛助会員7含む) 写生コンクール、ふるさと祭り等の協働開催		【課題】特になし 【改善案】
有識者所見		5-③、9-①に同じ。(戸枝)			

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
②外部との連携・調査					
A. 実施の状況	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 実施状況		ユニセフ協会千葉県支部と共同で館内を会場のウォーキング、栄町との共催でさくらまつりと地域感謝デー、栄町産業まつりへの参加、栄町産業課・栄町商工会・栄町観光協会と連携し、地元特産品の販売促進、NPO法人日本民家再生協会と協働し民家フォーラム千葉2013等を実施した。	地域との連携を図り、更なる充実を目指す	【課題】 【改善案】
有識者所見	引き続き、地域連携を行ってください。(戸枝)				
11.人材育成					
①博物館実習					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 回数、校数と参加者数	博物館実習 前年度並み	原則1大学1人の受け入れ体制で実施している。 1回8校8人	継続実施	【課題】特になし 【改善案】
有識者所見	実習生受け入れについては、館行事、職員数等も勘案して実施してください。(戸枝)				
②教員等研修					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 回数、校数と参加者数	教員研修 前年度並み	「教職員を対象とした博物館研修会」参加者は下見や体験の相談を兼ねる目的で参加しているため、需要は伸びている。県外校や中学校からの参加もあった。 館主催の研修会2回:77人 教員新人研修:4校5名	継続実施	【課題】参加希望者数の増加への対応 【改善案】教員研修会開催日数の増加。
有識者所見	教員研修については、継続して充実させてください。(戸枝)				
③職場体験学習・インターンシップ					
A. 回数・人数	・ 受入態勢等の構築状況 ・ 回数、校数と参加者数	職場体験・インターンシップ等 前年度並み	12校:32人	前年度並み	【課題】 【改善案】
有識者所見	11-①に同じ。(戸枝)				
12.県民等からの依頼による学習支援					
①展示等の活用					
A. 解説の回数、利用者数と満足度	・ 回数と利用者数 ・ 利用者ニーズの把握状況	前年度並み	企画展については、入館者数の多い土日などに定期的に行っている。常設展については、団体解説の要望が年々増加しているが、ボランティアの協力もあり、対応できるシステムとなっている。		【課題】 【改善案】
有識者所見	継続してください。(戸枝)				
②館内での講座・講演会					
A. 講座・講演会の回数・利用者数と満足度	・ 回数と利用者数 ・ 利用者ニーズの把握状況	前年度並み	12回744人(定員充足率:133%) ・考古学講座(4回)・むらの寺子屋(4回)おもしろ講座(4回) おもしろ講座にチャンバラ指南を新規演目で導入したところ好評だったので、継続したい。考古学講座は、毎回安定した集客力があり、特に「鉄の考古学」は人気が高かった。非常によかった、面白かったという意見が多かった。	前年度並み	【課題】職員の専門性を活かした講演会・講座の回数が少なめ。講演内容の多様化と実施方法の検討 【改善案】内容に応じて、広報ターゲットを変えるなど工夫する。
有識者所見	継続してください。リピーター度も調査してください。(戸枝)				

大項目		自己評価			課題と改善案
中項目	評価の視点	H25目標値	結果・所見	H26目標値	
細目					
③学校連携					
A. 学校団体の受入	・ 受入校数と回数、人数 ・ 利用者ニーズの把握状況	前年度並み	総数:493校 31,768人 小中等の内訳 小学校:417校 28,322人 中学校:8校 1,069人 その他:68校 2,377人 体験数:333件674回 25,481人 学校等の団体の受け入れ態勢が整っており、学習支援の場を提供している。	前年度並み	【課題】中学生向きの演目の開発 【改善案】中学校教師への解説会や研修会の充実。
B. 出前授業	・ 実施校数と回数、人数 ・ 利用者ニーズの把握状況	前年度並み	2校 3日間:78人 出張授業にも都合のつく限り、学習支援の場を提供している。	前年度並み	【課題】 【改善案】
有識者所見		多くの学校が利用しており、館が注目されていることが分かる。小学校の分析を行い、広報活動に繋げたい。(戸枝)			
④外部講師依頼					
A. 依頼の状況、回数と人数	・ 支援体制の状況 ・ 回数と参加者数 ・ 利用者ニーズの把握状況		・ 業務に支障のないよう、館内職員の協力を得ている。 ・ 20回:40人		【課題】 【改善案】
有識者所見					
13 地域づくりへの支援					
①地域との連携事業					
A. 機関・地域住民等との連携	・ 実施状況(種類と件数) ・ ニーズの把握の状況		8件 14日間:571人 東金青年の家をはじめとした機関との連携を進め、地域のこども達のニーズにこたえている。		【課題】 【改善案】
有識者所見		引き続き、地域との連携を充実していく。(戸枝)			
②観光資源としての活用					
A. 県外団体来館数	・ 団体数 ・ 地域等の傾向		285団体10,782人(うち海外団体3,171人で昨年度より2,365人の増)	上昇傾向を目指す	【課題】利用促進 【改善案】観光業者等への更なる情報提供を図る。
B. 外国人入場者数	・ 利用者数 ・ 地域等の傾向		・ 5,381人 ・ 配付資料の種類 15種類(館パンフ(英・韓・中・繁)、ウェルカムカード(英・韓・中・繁)、ようこそ日本!スペシャル体験パンフ(英・韓・中・繁)、モデルコースパンフレット(英・中・韓国) 中国本土と韓国は減少したままではあるが、台湾・タイ国の団体が増加した。	上昇傾向を目指す	【課題】海外メディアへの積極的なPR 【改善案】国・県による海外メディアの取材を受け入れる事業に積極的に参加する。
有識者所見		県庁知事部局の海外広報担当との連携を深め、旅行ガイドブックへの掲載を目指していただきたい。(加藤) 県が外国人観光客誘致を積極的に行うこととしています。「むら」も県他部局と連携し、誘致を行う方向で、諸設備の改善、解説方法の工夫、安全対策などに取り組んでください。(戸枝)			